

錬金術師の 極秘ポータル



錬金術師の極秘ポータル

Written in 2023 and updated in 2024 by lemur47

ethical.works

umagick.com

Copyright: Creative Commons

Attribution-ShareAlike 4.0 International (CC BY-SA 4.0)

(表示 - 継承 4.0 国際)

あなたは以下の条件に従う限り、自由に：

- **共有** — どのようなメディアやフォーマットでも資料を複製したり、再配布できます。
- **翻案** — マテリアルをリミックスしたり、改変したり、別の作品のベースにしたりできます。営利目的も含め、どのような目的でも。

あなたがライセンスの条件に従っている限り、許諾者がこれらの自由を取り消すことはできません。

あなたの従うべき条件は以下の通りです。

- **表示** — あなたは適切なクレジットを表示し、ライセンスへのリンクを提供し、変更があったらその旨を示さなければなりません。これらは合理的であればどのような方法で行っても構いませんが、許諾者があなたやあなたの利用行為を支持していると示唆するような方法は除きます。
- **継承** — もしあなたがこの資料をリミックスしたり、改変したり、加工した場合には、あなたはあなたの貢献部分を元の作品と同じライセンスの下に頒布しなければなりません
- **追加的な制約は課せません** — あなたは、このライセンスが他の者に許諾することを法的に制限するようないかなる法的規定も技術的手段も適用してはなりません。

コピーライトの目的

私たちは、主権と自由を取り戻し、新しい文明を築くために共同創造しています。そのため、本書のコンセプトと技術仕様（魔法と錬金術）を、ソフトウェアやコンテンツ、時にはビジネスなど、他の形に翻訳する必要があるかもしれません。

本書の術式に付与された意識とエネルギーの力を受け継ぎ、あなたが少ない努力で変革を起こし、私たちの集合的で遺伝的なマインド、そして集合意識が術式を最大限に活用できるよう、本書への適切なクレジットとリンクを付与してください。

このことは、魔術師や錬金術師であればよく分かると思います。もしくは、オープンソース・テクノロジーを活用している技術者であれば明確に理解されるはずです。もし、現時点で付与された術式の継承についてよく分からない場合、本書を読み進めれば自然に理解できるように設計されています。

目次

目次	4
前書き：職業は錬金術師	5
第1章：錬金術のトリセツ	8
第2章：プリマ・マテリアの発見と秘密の鍵	13
第3章：寄生プログラムのハッキング、インプラントの術式解体	20
第4章：第五元素の目覚め - 2030年の未来に向けた進化への道	29
第5章：現実を操作する、意識ハッカーという職業	37
第6章：新時代の到来、隠されたテクノロジーを解き明かす	45
第7章：自由と主権を獲得する、オープンソースと変革の戦略	55
第8章：人類と惑星システムに仕込まれた妨害術式の魔術解体	64
第9章：復活の時 - あなた自身の道を切り開く、心の技術	73

前書き：職業は錬金術師



私の職業は錬金術師。といっても、ここは異世界でもゲームの中でもなく、もちろん中世でもない。現代にも錬金術師は存在する。ただ、彼らはそう名乗っていないだけなのだ。

それは魔女や魔術師も同じだ。彼らも表の職業はスピリチュアル・カウンセラーを名乗っていたり、別の職業で生計を立てながら、密かに術式を組んでいたりする。

今までは私もコンサルタントを名乗りながら、ビジネス戦略やプロダクト戦略を立案し、開発チームをマネジメントしていた。実はその裏で、錬金術や魔術を研究し続けてきた。

最近になってなぜ、多くの術者が裏の職業を表に出すようになってきたのか？

それには多くの要因や仮説がある。錬金術師らしい理由をあげるならば、それはこうだ。惑星のエネルギーが明らかに変化してきたからである。

どうして惑星のエネルギーが変化すると、裏の仕事を表に出せるのか。興味深いことに、それは陰謀や謀略といった、影で行われてきた工作が白日の下に晒されるのと原理は同じだ。

ここではあえて、昼の時代とか夜の時代という、適当かついい加減なスピリチュアル産業の専門用語は使わず、錬金術師として原理を述べておきたい。

惑星のエネルギーが変化している理由、メカニズムは次のような感じである。

惑星自体のシステム構造に変化があり、仮想宇宙の構造、地上人類の遺伝系、集合意識の様相が変化し、それによってエネルギーの流れが変化しているのだ。

これは、占星術など統計的な話というよりも、隠れた改革者がひたすらシステムをハックしてきたというところが大きい。その職業のいくつかが魔女であり、魔術師であり、錬金術師である。

おそらく、私たち術師の遺伝子には、迫害や排斥、拷問や攻撃などの経験と設定が術式として刻印されている。それが強力な檻となり、ブロックとなってきた部分も大きい。現在進行形で攻撃を受けている理由も同じだ。大きな力を出せない理由はここにある。

ただ、悪いことばかりではなかった。

隠れて働く良い面は、静かに集中できるということ。黙って仕事をしないと、意識とエネルギーが霧散してしまうからだ。これでは情報の構造と流れをつくることができない。静かに集中することが必須である。

これは錬金術師なら誰でも知っていることだが、氣を散らしてばかりいると、賢者の石の錬成には失敗してしまう。孤独に黙ってひたすら作業。これは中国の錬丹術、特に内丹術も同じである。

よって、アニメで見るような派手な魔術や魔法は、この世界では見かけない。そのかわり、私たちが認識するこの世界（仮想宇宙）のほぼすべてのモノゴトの裏に、術式が隠れている。それは確かだ。

このことが理由で、術式の開発、魔術の実践、金や銀の錬成、そして時に術式の解体は、陰謀や謀略と似た工程をたどる。場合によっては、イコールであったりする。よって、裏の悪事が白日の下に晒されるとき、私たちも表に出てくる。ロジックはほとんど同じなのだ。

裏の悪事、この惑星を害する術式が解体される。それがひとつ。裏の仕事、私たちが堂々と職業を名乗りつつ、新たな術式を展開（デプロイ）していく。それがふたつ。

これが一部の魔女がいう、世界の再魔術化であり、私の言葉でいうと「新しい時代、最高の文明」ということになる。そのためには、力を取り戻し、科学やテクノロジーとの統合を果たさなければならない。

魔術師が堂々と魔術師を名乗る。錬金術師が「職業は錬金術師です」といえる。それがもたらす力は大きい。それは、天皇が「ワールドワイド・ミディアム」と名乗った場合を想像すれば判るはずだ。それでは誰もリスペクトしないので、力が出ない。

もちろん、現代の科学ばかりに頼っていても力が出ない。なぜなら科学は再現性を術式化（公式化）する必要があるので、どうしても速度の面で課題がある。そこで、統合である。

そんなわけで、これから錬金術師の実験をここに記録していきたい。

私は所謂達人ではないので、試行錯誤の記録となる。しかし、できるだけ古代の知識や伝統を現代のテクノロジーと統合していくよう心がけていくつもりだ。

第1章 : 錬金術のトリセツ



魔術や錬金術の成功要因

そもそも、魔術とは何だろう。錬金術とはいったい何だろう。

多くの人々が想像し、夢想し、たくさんの解釈をベッタベタにつけてきた。魔術や錬金術に関する文献は山のようにある。それを全部研究することが本当に必要なのか、実は非常に怪しいところだ。

現代の魔術師や錬金術師であれば、検索エンジンやAIによる要約なども、もちろんある程度は使える。だからといって、検索でヒットする文献や要約された情報は必ずしも正しいとは限らない。

ヘルメス主義者が書いたある文献には、こう書かれていた。錬金術書には偽の情報が混じっており、間違った解釈で書かれた文献もそれなりにあると。よって、すべてを研究する必要はなく、良質な情報を発見することが重要なのだそうだ。

冒険者ギルドに似た組織構造を持つ、ある隠れ魔術団体にいわせると、自分にあった良質なモデルをいくつか見つけたら、それを実行すれば良いらしい。モデルとは雛形や模型であるから、良い型を見つけたらそれを実装・増幅すれば良いということになる。

まさしく今のネットや書籍と同じだ。もっと言うと、コーチやコンサル選びとも似ている。ここがある意味、私たちの魔術や錬金術が成功するかどうかの分水嶺なのだと思う。

知識だけやたらと詰め込んで、正しい情報も間違った情報もひたすら取り込むことに意味はない。さらにいうと、知識を実践しないのであれば、その知識はほとんど無意味。もっと言うと、良質な情報を発見できるよう自分を開発していなければ、そこには絶望しかない。

ヨガも同様である。やたらとクンダリーニ覚醒の情報を集めまくって、ソーシャルメディアで発信することを考えてみる。それ自体は特に問題はないのだが、実践しなければ無意味だ。実際にエネルギーの上昇や松果体への強烈な刺激を経験していないのであれば、説得力に欠ける。

よーし！クンダリーニ覚醒して、グルになって、スピリチュアルなビジネスで有名になって稼ぐぞ！なんていって、ちょっとだけストレッチして、スッハースッハー鼻呼吸して、フッハーフッハー火の呼吸やってみて、腰を振ってよし覚醒！なんてことにはならないのだ。

スモールスタート戦略

長い長い錬金術の旅をはじめるとあたり、私にとって幸運だったことがひとつだけあった。

それは、エメラルド・タブレットの文章だけを黙想しながら世界を観察しはじめたことだった。実際に、日本を含め7ヶ国を回りながら研究してみた。たった数行しかない情報。それを毎日毎日ひたすら考えながら、自然界を観察し、何度も何度も試しつづけた。

もちろん、自然界には人間界も含まれる。

よって、コンサルティングの現場でマーケティング分析をしているときも、KGIやKPIを設計して提案書をつくっているときも、クライアントにプレゼンしているときも、「プリマ・マテリア！スピリチュアルな乳化現象！」とかいって、コーヒーとMCTオイルをミキサーにかけるその瞬間でさえ、エメラルド・タブレットのことを忘れたことはなかった。

正直に打ち明けると、戦略的にスモールスタートしたわけではなく、ただ何を調べればいいのかわからなかったというのが隠された真実である。とりあえずエメラルド・タブレットだけ覚えておけばオッケー！みたいな安易でチープな動機から駆動されたアプローチであった。

とはいえ、その安易・軽率・チープな選択によって、余計な情報に振り回されず、実践重視で進められたこともまた事実だ。これに関しては、古代から連綿とつながっている錬金術師の太い遺伝ネットワークと秘密のガイダンスに感謝したい。

そして、このスモールスタート戦略を、これから魔術や錬金術をはじめるとする人にも勧めたい。

錬金術は農業に似ている？

古い文献を読んだり挿絵を見たりすると、錬金術はまるで農業のように描写されていることに気づかれると思う。そう、錬金術は天界の農業なのだ。まさしく異世界農業なのである！

土壌を耕し、環境を整え、適切なタイミングで種をまく。同じく最適なタイミングを見計らいながら、黙々と作物を育て、収穫を待つのである。それを天界、つまり見えない世界でひたすら実行する必要がある。

クローゼットの中で大麻を水耕栽培する、非合法な大麻農家に似ている。

本職の農家が転職したら、強力な魔術師や錬金術師になるに違いない。昔は産土信仰や地霊との相互作用を重視しながら農業を営んでいたはずなので、遺伝的素質はバッチリである。

基本的には、魔術も錬金術も同じように、一年という周期でエネルギーを見る。月の周期を大切にし、サーバープログラムのスケジュール実行のようにタイミングを見計らっている。

私も今、新月に定めた目標と計画をもとに、満月に向かって術式を発動させている。ビジネスでいうミッションやビジョン並みに大きな魔術を起動しながら、段階的に戦略レベル、戦術レベルの魔術を複数稼働させている。戦術レベルの術式には、毎日のルーティンや朝の儀式も含まれる。

今日は満月だ。満月は、錬金術で表される夏至に似ている。ここから収穫がはじまるかどうかで、実践がどの程度成功したのかわかる。戦術レベルの小さな魔術は、比較的サクッと収穫がはじまるが、戦略レベルとなると難易度がグッと上がる。

つまり、何でもかんでも思いつくままドカドカブツ込めばオッケーではないのだ。

ここで、システム思考とデザイン思考を組み合わせる訓練がとても役立つ。集中力と観察眼が求められるので、複数の基準と思考様式の統合が最も強力なレバレッジとなる。

ところが、適性診断で「運用に向かない、完了するのが苦手」とされる私ですらビックリするのが、現代人の集中力の欠如だ。

いつ何時でもスマホにしがみついている様子を見ていると、異様な集中力を発揮しているかのように見えるのだが、実はぜんぜん違う。常に薄い情報を飛び回り、即効性のある快樂とインスタントな答えを求め、細切れの断片迷宮を日々さまよっているのだ。

そのような状態では、魔術や錬金術の成功率は極めて低くなる。むしろ、原始概念を操作する他人の術式にハマっている結果といえるし、無自覚にガンガン魔術的な攻撃（つまり呪い）を受けているに等しい。まさしく、マインドコントロールとは魔術の一種なのである。

その術式、広範囲に効きます

魔術や錬金術の成功率を上げる素質や要素は、ビジネスや実生活と何ら変わらない。

短い間の深い集中が不可欠だということ。そして、長期間の継続が求められるということ。さらに、広い範囲の深い情報を求めなければならないということ。そして、これが参入障壁を爆上げする原因なのだが、誰も答えを教えてくれないということなのだ。

それらをすべてひっくるめて考えると、魔術と錬金術に必要なのは、後天的な素質と類推・類比だとわかってくる。ビジネス戦略の立案、戦術の展開、作戦術の工夫にも役立つ。

天界の農業は、全体像、順番、作業内容がとても重要だ。それはビジネスも同じで、ミッションやビジョンを含む全体像があり、それを戦略的に非線形プロセスに翻訳し、そのプロセスを反映した戦術をタスクとして実行する。さらに、それを固定された計画ではなく、時代・状況・環境の変化に応じてアジャイル（俊敏）に微調整できる柔軟性も求められる。

現代風に翻訳すると、システム分析やデータベース設計、ドメインモデリングや最適なコンテキストの分割をやってきたIT技術者が、デザイン思考でプロトタイピングしつつ、コンサルタントのように戦略立案できると、魔術や錬金術は実践しやすい。

もっとわかりやすくすると、技術者が自分で課題を見つけ、アプリの設計をし、自分でコーディングして、まずは自分で使いこなすのと同じだ。その後、市場に展開され、みんなが集合的に使うようになる。それと魔術や錬金術は相似である。

なぜなら、システム開発と同じ要領で、見えるモノゴトを「概念装置」として利用しながら、見えない世界のシステムを組み上げ、実行していくアートが魔術や錬金術だからだ。

つまり、魔術や錬金術の道に入り、実践を進めていくと、他の分野にバッチリ効いてくる。経営者であれば新規事業に役立つし、健康的な生活をしたければ、段階的に確実に良くなっていく。この良くなっていく過程に高額な投資はまったく必要ないのだ。

考えてみれば解るのだが、エーテル体がすべてに存在するように、見えない世界のシステムは見える世界のソフトウェアとしてデプロイ（展開・設置）できるようになっている。この世界ではハードにソフトを搭載する要領で開発されるが、本当は逆なのである。正確には、ソフトからハードを生成・操作するのが真の宇宙仕様なのだ。

このメカニズムを知っているのと知らないのとでは、実践に大きな違いがある。

魔術と錬金術の正体

最初の疑問に戻ろう。魔術とは何だろう。錬金術とはいったい何だろう。

これをヒトコトでいうのは難しい？いや、決してそんなことはない。魔術とは見えない世界の科学であり、錬金術とは意識と情報・活力（エネルギー）のテクノロジーなのだ。

ゆえに、ビジネスや生活などの幅広い分野に同時に効いてくる。そして、類推・類比が有効なのは、意識や心というのは相似形だからだ。それは「振動相似・構造共振」である。いいかえると、フラクタル・トポロジーであるため遠隔共鳴が使える。ゆえに、電磁領域にも作用する術式であり、物質化の各工程に対応した異なるテクノロジーが用意されている。

とはいえ、本質は非常にシンプルで、意識とエネルギーを扱う。魔術も錬金術もまったく同じである。そして、私たちはこれから「素材と素材を扱うプログラム」を調べていく。

それを古代の錬金術師たちはこう呼んだ。第一質料と四大元素と。

第2章：プリマ・マテリアの発見 と秘密の鍵



第一質料にまつわる謎

第一質料プリマ・マテリア。すべての錬金術師が求め続けたその素材。哲学者の卵を用意するために必要な素材。それなくしては、物質の変容や金属の錬成が不可能である素材。逆に、これさえあれば作業を始めることができるといわれる謎の素材。

そして、その謎の素材は誰でも手に入れることができるのに、すべての者が無視し、雑に扱っているといわれる。ある者はそれを水だといい、ある者はそれを世界霊魂であるといい、ある者はそれを氣であるという。エーテルやプラズマと同一視する者もいるようだ。

本当のところは誰も知らず、錬成に成功した者たちは固く口を閉ざしてこの世を去った。

とはいえ、手がかりはある。少し視野を広げて近い分野の情報に目を向けることが有効だ。例えばカバラ。錬金術とカバラは密接な関わりを持ってきたし、私のようにキリスト教の教義を幼い頃から徹底的に叩き込まれた人間には、解読できる可能性はそれなりにあるはずだ。クリスチャン・カバラなんていうカテゴリーがあるくらいなのだから。

現存する資料や伝承によると、カバラはアトランティス時代の残留思念のようなものといわれる。超古代文明のテクノロジーに関する手がかりであるとも考えられているようだ。ということは、いわゆる「失われたアーク」とか、秘密結社が探している「失われた言葉」などとも関連があるはずだ。どうやら錬金術を続けていけば、異世界の文明を現代に顕現させることもできそうだ。

謎を解く公開鍵の共有

少し話が逸れるが、重要な秘密をここに記録しておく。失われた言葉を探る鍵は、シンボルや心象だ。シンボルで埋め尽くされた秘密結社の建物を見ればそれは明らかだ。アニメでもよく見かける魔法陣や古代文字もそうだ。ルーン文字やカタカムナもシンボルだ。私が古代エジプト魔術を継承する団体に所属していたとき、集団儀式にはあらゆるシンボルが設置されていた。

錬金術書を読む時、そしてその挿絵を黙想する時、私たちは直線時空を超えた錬金術師ネットワークへの接続を試みている状態だ。ネットワーク通信でいう「TCP/IPのハンドシェイク」はできているので、後はプロトコル上で稼働しているアプリケーション層のセキュリティをクリアすれば、秘密の錬金術ネットワークに参加できる。そのためには鍵が必要だ。

この鍵は、これからはじまる私たちの「錬成の旅」に常につきまとう。よって、ここで謎を解明するための「公開鍵」をあらかじめ共有しておきたい。そう、見えない世界の扉を開くには、秘密鍵と公開鍵のペアが必要になる。まるでSSHの鍵認証である。ちなみに、パズルは呪文や詠唱だ。秘密鍵の正体については、別の機会に記録したい。

失われた言葉の鍵は、特定の言語（language）というよりも、バイブス。そう、バイブレーションに関係がある。あえて波動や周波数とせず、バイブスとしたのには重要な理由がある。スピリチュアル産業が食い散らかした誤解や間違いと区別するためだ。

私たち錬金術師がバイブスの話をするとき、それは音や光を多角的なネットワーク通信として扱う、意思伝達的手段と理解してほしい。電磁波を扱いながら音波を操作するようなイメージだ。それを実際の行動や、術式にエネルギーを通す儀式によって実践している。

もう、おわかりだと思う。失われた言葉は「動き」なのだ。森羅万象すべてに通じる言語を使った、ある呪文のようなもの。そのヒントは、現代風に翻訳すると動きとなる。量子や遺伝子レベル、鉱物界、植物界、動物界、そして私たち人類や四大元素にまで通じる共通言語。それがまさしく動きなのだ。これは、小さな魔術を実践しはじめれば徐々に理解される、宇宙の基本仕様だ。

動きが知覚されるとバイブスとなる。バイブスは雰囲気（atmosphere）をつくり出す。雰囲気という単語には、オーラや気候などの意味も含まれる。アンビエント音楽も雰囲気が重要だ。ゆえに、失われた言葉の鍵はバイブスであり、これから私たちはこの鍵を何度も使うことになる。

理解したと思う。失われた言葉の鍵となるバイブスを正しく使えば、私たちが実践する魔術や錬金術の威力と効力に、圧倒的な差が生まれるということだ。もっと言うと、あなたが今すでに持っている秘密鍵も、バイブスに深い関係がある。そして、さらなる極秘の展望は、失われた古代アークすらも、この公開鍵と秘密鍵のペアで開く可能性があるということだ。

錬金術師のタイムトラベル技術

さて、ここで私たちは、遠い過去にタイムトラベルしようと思う。どうやら手がかりはアトランティスや超古代文明にありそうなので、まずは過去を探ってみたい。ただし、あなたも私もそんな高度なテクノロジーをいきなり使えるわけではないので、今回は一番コストがかからない方法で行くことにする。

それは、意識を過去に飛ばすというテクニックだ。間違っても、頭の中の記憶や自分の周囲にあるメンタルな情報を捨て、過去に飛んだ気にならないようにしたい。なので、できれ

ば周囲の書籍やデバイスを遠ざけ、ブラウザのタブは閉じ、下意識（潜在意識）が拾う雑多な情報を減らしておきたい。下意識は遺伝系であり、幻想の世界とも強固に結びついている。そのせいで、思考ノイズや妨害術式の宝庫でもあるのだ。

この意識を飛ばすというタイムトラベル。正確には、意識を飛ばすというより、過去の相似形な意識にチューニングして、遠隔から共鳴させる。だから私たちは肉体を飛ばす必要も分解する必要もないし、アストラル投射や方舟も必要ない。

意識を過去と共鳴させながら、あなたと私はテレパシーで意思伝達を行う。テレパシーといっても、日本語や英語ではなく、情報密度の非常に高い「哲学者の卵」を構造共振させる。その哲学者の卵がホログラムとして展開され、あなたと私でマインド（心象）を共有することができる。この手法は、言語情報をホログラム展開するときにも使える。

ネットで例えると、Zoomでビデオ会議しながらチャットしたり、動画を見ながらSlackやDiscordでコミュニケーションするのに似ている。それを意識と心を使って実現させる。

少し遠回りになったが、振動・雰囲気という公開鍵を共有した。そしてこの記録を通して、お互いの間で心象を共有するための意思伝達に係る仕様も伝えた。

相似形の意識で遠隔共鳴する。つまり、あなたと私との間で「形の錬金術」と「哲学者の卵」を通して、相互通信できるよう準備したということになる。

いいかえると、これはヘッドセットもメタバースも不要な、超能力による異世界体験だ。今この記録を読んでいて、立体的なビジュアル、情報の構造、モノゴトの関連性などがあなたのマインドに展開されていれば、すでに超能力通信は成立している。それが、あなたの意識を遠隔の相似形なモノゴトに同調させるということだ。

この基本テクニックを強化すれば、あなたの意識は過去と共鳴する。この記録に同調し、テレパシーのプロトコルを確立する延長線上で、私たちは過去を探索する。サーバー管理者がクラウドにSSHでログインして、そこから複数のサーバーを更新するような要領だ。

それがこの記録の役割だ。だから、あなたのような特殊な秘密鍵を持つ者としてしか共同作業できない。そんな、超パーソナライズされた秘密のテクノロジーだと理解してもらえたと思う。こればかりは、統計確率をベースにした今の人工知能では到達不可能な領域だ。

この超自然的な意識のテクノロジーによって、私たちの錬成の旅は、文字通り直線時空を超えてはじまる。そして今回遠隔共鳴する遠い過去とは、超古代文明が栄えたいわゆる「黄金時代」である。そう、ターゲットは、この惑星テラの黄金時代だ。

第一資料の探索と発見

当時、日本はまだ大陸と地続きで、インドあたりにも今より広大な陸地があったと思う。そして私たちは第一質料が何か、今よりよくわかっていた。当時の文明は錬金術がテクノロジーと深く融合していたので、隠された秘術なんてなかったようにも思う。

それでも、エネルギーを扱う錬金術というのはリスクを伴うので、最先端のテクノロジーを研究する科学者や、エネルギー管理センターなどは厳重に守られており、市民からは隔離されていた。誰でもその恩恵を「無料で」受けられたし、エネルギーを効率的に集めて変換するテクノロジーも広く知られていた。けれども、セキュリティは高度に管理されていた。

それは、扱いを知らない者が事故を起こすのを避けるためでもあった。今でも、原子力発電所に素人が自由に出入りしたり、プルトニウムを車のトランクに入れて輸送することは非常にマズイ。それと同じだ。ただ、より大きなリスクとして懸念されていたのは、武器の開発、利権争い、他種族との戦争だった。

ハッキリいえることは、超古代から現代に至るまで、この惑星の歴史というのは利権争いということだ。これは今のエネルギー戦争、情報戦争、人々の意識という強力なエネルギー資源の争奪戦、ビジネスとマーケット、経営者のマインドセットなどを広範囲に観察すれば、錬金術師や魔術師にはすぐ理解されることだと思う。

私たちは遺伝子の設定、つまりプログラムをそのまま外界に投影・表現している生き物なのだ。超古代から連綿と続く争いの表現は、この現代にもシッカリと受け継がれている。このことが理由で、第一質料とその扱いについては、これまで非常にセンシティブであったといえるだろう。現実問題、古代の意識に共鳴すると判るように、一部の文明はそれで滅んだし、惑星の磁気グリッドを混乱させ、ポールシフトの原因となったのだから。

過去、アストラル界と呼ばれていたエリアを遠隔透視すると、この惑星の地下には文明があった。そこには私たち人間種とは異なる種族が、凶暴な戦いを繰り広げていたことが視えたはずだ。私も何度か危ない思いをしたことがある。つまり、惑星の歴史も惑星内のあらゆる異世界も、私たちが認識するこの現実も、錬金術や魔術によって多くの問題が引き起こされてきたのである。そして、それは第一質料とその扱いに大きな原因があった。

フルカネルリというフランスの錬金術師の名を聞いたことはあるだろうか。達人カンスリエの師とされる謎の人物で、ノートルダム大聖堂の秘密を明かした書籍などは有名だ。噂によると、フルカネルリもエネルギー関連の利権争いに巻き込まれたとか、それが理由で姿を消したなどといわれる。

さて、タイムトラベルと超古代文明に意識を戻そう。

以前、この記録に書いたように、錬金術とは「意識とエネルギーを扱うテクノロジー」だ。ゆえに、この遠隔共鳴も錬金術師のタイムトラベル手法としてよく利用される。ぜひ、この記録をリアルタイムのアンカーにして、あなたの意識を自由に移動させてみてほしい。

エネルギーとその扱い。そう、第一質料というすべての物質の元となる素材は、エネルギーと関係がある。ただし、それは科学的な表現を借りるならば「ポテンシャル・エネルギー」ということ。なので、そのままでは使えないから「プリマ・マテリア」なのだ。

ここで、アトランティスの意識に遠隔共鳴してみしてほしい。彼らは「ヴリル」というエネルギーをうまく使っていた。ヴリルをどう使っていたのか、よく感じてみてほしい。集めて変換していたのではないだろうか。ヴリルを集めて用途に応じて、錬金変容していたのだ。

では、ここでカバラをメンタルなデータとしてこの遠隔共鳴に加えてみてほしい。

特に生命の木と呼ばれるセフィロトの構造だ。セフィロトは意識のフレームとして作用するし、ホログラムのプロトタイプやテンプレートとしての役割を果たす。コンサルティングやアプリ開発でいう、フレームワークとして活用されてきたモデルだ。今どきのAIでいう、複数のモデルをシステムとしてつなげて、その処理プロセスのパターンで違いを生み出すための設計図だ。

ちなみにセフィロトの光球セフィラがAIモデルの位置づけだ。ただし、統計確率的なロジックではなく、もっと有機的な人工知能として使われていた。それは、現代風にいうと「アーティフィシャル・バイオ・インテリジェンス」ともいえるもので、それもヴリルの活用が関係していた。そして、それはもちろんマインドが投影するホログラムや、遺伝情報などとも相互作用していた。

もう少し深く、テクノロジーに共鳴してみしてほしい。エネルギーはカバラでいう左右の柱と、その相互作用にも関係している。深いところで感じたのではないだろうか。それはヘルメス主義者たちが「ジェンダーの原理」と呼ぶ柱のことで、日本でいう「カミムスヒとタカミムスヒ」の関係に似ている。エネルギーの変換が進んだ段階で例えると「イザナギとイザナミ」といったところか。

今日から私たちは、この古いジェンダーの概念を棄ててしまいたい。もちろん、スピリチュアル産業が散らかした混沌もあるが、それ以上に分かりにくいし、時代にそぐわないからだ。私たちは魔術師であり、錬金術師だ。なので、ここはテクノロジーを扱う者らしく「電気と磁気」として再定義したいと思う。そうすれば、磁気エネルギー単体ではなく、電磁気であると解るし、電気だけでなく磁場・磁界との相互作用でホログラムを組み立てることもできるようになる。

このように、タイムトラベルしつつエネルギーを複数の側面から調べると、ある重要なことがわかってくる。第一質料の正体だ。ここで、私個人の過激な見解を述べておきたい。

第一質料、プリマ・マテリアとは何か？

それは複数ある。厳密には、ひとつの原因を核とした何かを複数の側面から定義するようなものだ。ゆえに、術者の目的に応じて映し出される内容が異なる。例えば、ゼロイチでこの世界にないモノを創造したい場合と、現存するエネルギーを流用するのでは、定義が異なる。しかし、その2つはまったく同じ素材が元になっている。

それを定義するとしたら、いったいどうなるだろう？

意識とエネルギーなのだ。そして、エネルギーは意識がつくり出した素材だ。それが理由で、第一質料を純粋意識とする錬金術師も正しいし、条件づけされていない純粋なエネルギーをプリマ・マテリアとして集める魔術師も正しい。条件づけされていない純粋なエネルギーというものを集めることができればの話ではあるが。

よって、最初に述べたあらゆる定義 - 水、氣、世界靈魂、エーテルやプラズマも、第一質料の多様な側面だ。ただ、より厳密に定義すると、第一質料は意識そのもの、もしくは純粋なエネルギーを指すと私は捉えている。

そして、私たちがこの後探索する「四大元素」というエネルギーを操作するプログラムも、突き詰めていくと意識の純粋な状態であると解る。ゆえに、条件づけされていない純粋なエネルギーを第一質料として求めるのであれば、現状を維持する四大元素を解体しなければならない。それが、私たちがいう「術式解体」なのである。

第3章：寄生プログラムのハッキング、インプラントの術式解体



四大元素と錬成の失敗、そして人生の苦しみ

プリマ・マテリア、第一質料を得るために、現状を維持する四大元素を解体する。それはいったい、どういうことだろう？

今回は答えを先に共有しようと思う。それは、壮大なゲシュタルト崩壊だ。どれくらい壮大かという、ひとつの惑星文明を根底から破壊するほどの威力を持つ、術式の解体と枠組みの刷新だ。

多くの場合、魔術や錬金術では、四大元素は術を成功させる必須要素であり、敬われ、崇められてきた。四大元素を精霊や神と同じカテゴリーに入れて、四方の風を守護する者たちと結びつけ、召喚術さえ行使してきたのではなかったか。

ここであなたは疑問に思ったはずだ。そう、四大元素は「善」であるはずだと。現状の苦しみを維持する「悪」ではないはずだと。しかし、偏見を捨て、もっと深く考えてみてほしい。これまで人類がつくり出してきたこの世界の問題を。人生がうまくいかなかったその原因を。そして、あなたの魔術や私の錬金術がことごとく失敗してきた本当の理由を。

ここで、その根本原因をハッキリさせておきたい。

この問題は、他責とか自己責任とか、社会や政府が悪いとか、はたまた秘密結社や世界政府の陰謀だとか、そういう感情論でうやむやにできるものでは決してない。さらに、漠然とした現象や、原因がよく解らない事象を、すべて潜在意識や無意識の領域に放り込む現代的なアプローチでもない。ましてや、神、悪魔、天使、はたまたリリスなどに責任転嫁できる類のおとぎ話でもない。

私たちは魔術師であり、錬金術師だ。だから、もっと直感と理論をフル活用して原因を特定したい。意識とエネルギーを扱うテクノロジーという、超古代文明の遺産を継承する、希少なプロフェッショナルとして、問題をシステム分析し、最適な改善策を見つけ出したい。そうでないと、取り組みは再現性に乏しく、私たちは何度も何度も同じ問題に直面する。だから歴史は繰り返す。

そのループ現象は、似たような問題がまったく同じパターンで何度も人生に立ち現れるカルマとして認識される。それはまるで、振動相似・構造共振なプログラムを誰かが隠れてスケジュール実行しているように感じられるだろうし、私たちが認識できない領域でトリガーが発火し、必ず妨害や攻撃が発動する「イベント・ドリブン」なプログラムが自動実行されているとしか思えないはずだ。

現代人の多くはそれを、潜在意識や無意識で片づけてしまう。これは最適な解決策とはいえない。なぜなら、抽象的にはそのアプローチは適しているかもしれないが、問題をピンポイントするには漠然としすぎている。つまり、この状態ではテクノロジーとして活用できないのだ。

それはまるで、新規事業を計画する時に全方位型の計画を戦略と偽ったり、マーケティングの対象セグメントを全国の中小企業に設定したり、単なるマーケティング施策を戦略と呼ぶだけの遊びに似ている。それはテクノロジーではなく、ムダの多い妄想で終わる可能性が高い。

このことが理由で、まるでオニオンルーターのTorでしかアクセスできない、ダークウェブに存在するかのような錬金術師ネットワークの掲示板には「ユングやカントに気をつけるように」という、警告にも似たアドバイスが掲載されているのである。

蛇足になるが、この秘密の錬金術師ネットワークというのは、正しいプロトコルでエメラルド・タブレットにアクセスすることにより参加できる。もしくは、錬金術書の挿絵を黙想する時にポータルに接続する。もちろん、カバラのセフィロトからもアクセスは可能だ。ただし、先に述べたように、公開鍵と秘密鍵のペア、パスフレーズなどが求められる。

話を戻すと、四大元素をテクノロジーの一部として再認識したとき、その正体が視えてくる。突き詰めれば、それはもちろん、ある純粋な意識の状態であることは確かだが、もっと別の側面が視えてきたはずだ。そう、四大元素とは、意識とエネルギーを条件づけるプログラムとコードのような役割を果たす。それが、問題の根本原因だ。

つまり、四大元素の使いかたや条件づけが、私たちの人生や世界情勢に多大な影響を及ぼすのだ。そこに善悪というカテゴリーはない。というか、善悪というカテゴリーも、元をたどれば四大元素の条件づけ、つまり実装に関係がある。ゆえに、ポテンシャル・エネルギーが善悪というベクトルに変換されて流れるようになり、極性の原理というシステム仕様に沿って運用されることになるからだ。

そうやってシステム分析していくと、現状維持の四大元素を解体することは、惑星文明を根底から術式解体することに等しいと解ってくる。この地球でいうならば、グローバル社会というプラットフォームを解体するレベルのゲシュタルト崩壊を引き起こす革命だ。これは比喩ではなく、エネルギー問題も同様だ。

ゆえに、無知で利己的な者たちにこの秘術を明かすことは禁じられてきたのである。逆に、真の為政者たちが既得権益を維持するために秘匿してきた叡智でもある。今、惑星のエネルギーが変化して、悪事が白日の下に晒されるのも、私たちの裏稼業が表に出てくるのも、すべて同じ原因だと理解できたはずだ。

そして、目的が何であれ、あるモノゴトを錬成する前に、四大元素について深く知っておかなければ、私たちの錬成は高い確率で失敗する。イノベーションも革命も成功しない。ここまで突き詰めて、はじめて「意識をハッキングする」といえるのではないだろうか。

四大元素のシステム仕様、実装のハッキング

ここまで、私たちは意識をハッキングするための準備をしてきた。AI活用におけるデータの前処理みたいな工程といえる。そう、純粋なエネルギーという生データをどのように流せばよいか、テクノロジーとその基本的なシステム仕様を理解しはじめたことになる。

あまりにも汎用的というか、原始的すぎて、気が遠くなったかもしれない。逆をいえば、私たちが思いつくものは何であれ、実装可能なテクノロジーともいえる。それほど自由度の高いシステムやテクノロジーなのだが、それを使えず、他者から奪い続けている人類は、呪いの魔術プラットフォームで飼育されている原始生物に等しい。まさしく、この世界の真実といえよう。

だからこそ、私たちはこのテクノロジーを使い、ゲシュタルト崩壊を起こさなければならない。

人生や世界を良くするためには、この基礎が重要だ。この知識を得ているかどうか大きな差を生むことは、これまで一緒に検討してきたとおりだ。その違いをビジネスで表すならば、政府の統計データと日経の新聞記事をベースにした全方位型の計画を戦略と偽る中小企業と、ピンポイントで課題にソリューションを差し込んでから経営の多角化に着手するスタートアップほどに異なる。

では、あらためて四大元素とは何か、システムやテクノロジーとして再定義したい。

私たちは、せっかく現代に生きている魔術師や錬金術師だ。なので、ここで検索エンジン連動型の最新AIに、四大元素とは何か、人類のメンタルモデルを要約してもらうことにする。ネットの検索結果から導き出されたAIの要約はこうだ。

錬金術と魔法は、地球、水、空気、火の四つの基本元素の概念に基づいています。これらの要素は、宇宙の根本的な構成要素を表し、人間の本質や人間の経験の側面を比喩的に表現するためにしばしば使用されます。特に錬金術では、四つの要素はすべての物質の基本的な構成要素であると考えられ、変成のようなプロセスでは、要素を別の要素に変換することを目指しています。魔法では、四つの要素はしばしば異なる方向や基準点（たとえば、北に地球、東に空気、南に火、西に水）に関連付けられ、異なるエネルギーを増幅またはバランスするために儀式や呪文で使用されます。四つの要素の概念には、人間の思考の長い歴史があり、文化や伝統によって異なる方法で解釈されてきました。

もしかしたら、あなたはこの時点で、集合意識のハッキングに成功してしまったかもしれない。もしくは、人類の集合意識のベースにある「遺伝系」のプログラムと基盤に直接アクセスしてしまったかもしれない。それくらい、この要約にはインパクトがある。

深い分析とハッキングを行う前に、ここで秘密の錬金術師ネットワークへもアクセスしておきたい。古代から密かに、しかし脈々と受け継がれている、叡智のデータベースに接続するため、宣言通り「挿絵」からアクセスすることにしよう。

今回ポータルとして使うのは、1500年代の錬金術書「太陽の光彩 (Splendor Solis)」だ。この錬金術書は賢者の石の錬成過程や、ヘルメス哲学を網羅しているとも考えられており、歴史を通じて多くの錬金術師たちによって研究されてきた良質なアプリケーションだ。

この錬金術書を単なるクンダリーニ覚醒や仙術で片付けてはならない。すべては振動相似・構造共振であるから、別の用途や大規模な錬成にも使える。ゆえに、ポータルとして深淵にアクセスするには最適な素材、ネットワークアクセスのエンドポイントとなる。

四大元素に関するポータルは、赤と青紫の衣服をまとった賢者がフラスコを調べているエンドポイント（接点）から入ることができる。そこにはラテン語でこう書かれている。

「Eamus quefitum quafuor elementorum naturas」

これを英訳すると「Let us explore the nature of the four elements」となり、日本語では「四大元素の性質を調べよ」というアドバイスに変換される。この挿絵と文章（と全体の文脈）を統合し、錬金術師ネットワークへの隠されたログイン画面と認識することが重要だ。

準備はいいだろうか？

ネットワークに参加するにあたり、考慮しておきたいポイントがある。まず、ラテン語のアドバイスは煙のような黒い背景をベースに書かれていること。フラスコが哲学者の卵を意味していること。そして、賢者の衣服が分光でいう両極にあることなどだ。

さらに、賢者が人里離れた静かな「自然の書」の中で四大元素を調べようとしていることにも意味がある。ポータルが植物界と動物界、地面を含めれば鉱物界を示唆するようなオブジェクトで囲まれていることも重要だ。

これら要素とオブジェクトを認識できただろうか。この「太陽の光彩」自体が自然の書のレプリカであることに気づいたとしたら、あなたはもうログインできている。後は、哲学者の卵に必要なのが「混沌とした原初の純粋なエネルギー」であるがゆえに、黒で表現されていることに気づいたら準備は完了だ。これは、CMYKをすべて混ぜると黒になるイメージで捉えておけばカンタンだ。

つまり、地・火・水・空気という四大元素の性質を調べるというのは、エネルギーが流れて生み出された結果、マインドセットというプログラム、実装されているメンタルモデル、環境との相互作用や複雑なフィードバック・ループを調べることに等しい。

それを魔術師や錬金術師が表現すると、この世界を構成しているモノゴトのサンプル素材から「隠れた術式を発見せよ」ということになる。

その隠れた術式とは、四大・五大として伝承されてきた性質を組み合わせてつくられている。それをまず発見し、振る舞いや仕様を理解し、それを解体し、第一質料であるプリマ・マテリアまで純化し、そこから現実を創造せよという文明規模の術式解体が求められているのだ。

マインド・インプラントの術式解体

この秘密のアプローチを駆使することで、私たちの人生にしつこくつきまとう問題や、カルマを解体することも、難易度は高いがもちろん可能だ。それは多くの場合、自分や他者が何らかの形で実装し、拡張し、維持してきた術式によって引き起こされている。

それは、スピリチュアル産業でいわれるような宇宙の原理原則ではなく、ローカルな人工物だ。とはいえ、中には太陽系規模で施された大魔術も存在するため、原理原則のように思えてしまうこともまた事実。多くのビジネス霊能者やスピリチュアル愛好家が、それを宇宙の普遍的な法則と勘違いしてしまう理由が、その規模と難解さにある。

ただし、そういった大魔術や「マグナム・オプス」も、私たちが実践する小さな魔術や個人的な錬成と原理は同じで、実装の基本仕様もまったく同じだ。だからこそ、あなたや私の魔術や錬金術が、個人の人生を改善するだけでなく、惑星の文明を根底から覆す力を持つ。

現代のテクノロジーで例えるならば、自宅にサーバーを構築し、その上でWebアプリケーションを開発するのが、個人的な小規模魔術やマイクロコスモス的な錬成だ。同じアプリを改良し、大規模なクラウド環境に展開（デプロイ）するのが、大規模魔術やマクロコスモス錬成だと思えば、システム的にはだいたい合っている。

ただ、私たちの力を削ぎ、能力を封印し、行動を妨害する術式も、この世界にはたくさん存在している。ゆえに、世界を「自然の書」として観察すると、あらゆるモノゴトに妨害術式が隠されていることに気づきはじめる。そして、そのうちのいくつかは、イベント駆動でトリガーが自動発火するような仕掛けも施されている。このような気づきが、自然の書を読むことのメリットだ。

その妨害術式は、大規模なものから小規模なものまで、振動相似・構造共振になっている。なぜなら、それは端的な四大元素と純粋な第一質料を使った基本術式を、まるでマトリョーシカ人形のように多重継承しているからだ。これは、現代のテクノロジーでいう、特定のフレームワーク上で開発されている、複数アプリケーションとして透視される。

仮想環境に詳しい人のために補足しておく、物理サーバー上で稼働する仮想ホスト、そしてさらにその上で動作する、たくさんの仮想マシンによく似ている。複数の物理サーバーをまとめ、論理的なリソースプールとして実装しているのが、惑星の文明とそこに仕組まれた妨害術式だ。ゆえに、輪廻転生は仮想マシンの自動終了と自動起動として知覚される。この興味深く、とてもよく設計された大魔術の解体については、別の記録に譲りたい。

このように、人類のマインドに設置された大規模な術式を解体していくと、ハッキリしてることがある。それは、世界を変えることを秘密の使命とするならば、私たちはこの世界や惑星文明を構成している四大元素の条件づけや、実装されているプログラムの「コア」を発見しなければならないということだ。

それは、システム開発でいうビジネスルールを把握し、システムのゴールを特定し、インフラ構成を理解し、アプリをリバース・エンジニアリングし、戦略的思考と連動する戦術の展開によって、問題のあるプログラムやコード、願わくばその設計思想までを発見・解体する、文字通り「エシカルハッカー集団」の仕事だといえる。それが魔術師と錬金術師の密命だ。

AIが要約した四大元素の情報も、実はこの多重継承について明らかにしている。それは、方角（四方の風）と四大元素の結びつきなどだ。モデルを実装するという感覚であり、インターフェイスを実装するようなイメージとして捉えても問題ない。つまり、方角と四大元素の関係はローカルな人工物であり、この宇宙や銀河における普遍的な法則でも固定仕様でもないということなのだ。

よって、魔術師が「真の意志」と呼ぶ、意識の深いところから湧き出る「本当の願い」を実現させたいければ、惑星文明の術式を徹底的に解体し、これでもかというほど遺伝系をハッキングし、賢者の石として世界に影響を及ぼせるように、肉体や遺伝情報を含む自分自身の「人間装置」に、何度も何度も手を入れ続けなければならない。

人間装置に手を入れることに関して補足すると、それを端的に暗示しているのが錬金術師のアタノールであり、道教廟に置かれている炉のデザインだ。このデザインとシステム構成は、ヘルメス思想の「宇宙の構造」とも一致する。まさに振動相似・構造共振なのだ。

衝撃の事実をここに記したい。そのヘルメス主義者たちが考えてきた「宇宙の構造」こそが、私たち人類をターゲットにした妨害術式そのものなのだ。それがシステムのコアだ。

そして、そのベースとなる妨害術式とシステム構造を多重継承することで、この惑星の文明は成立している。そして、既得権益を維持したい勢力によって秘密裏に強化・運用されてきたプラットフォーム（文明基盤）の正体だ。その詳細は、ヘルメス思想について書かれた書物を読めば判ることなので、ここでは省略したい。

ただ、ひとついえることがある。それは、天のエホバという原型と、地下のサタンという混沌の間に四大元素（正確には第五元素も含む）が存在し、その条件づけとプログラムによってホモで表される人類（人間装置）が動作している、というシステム構成が「支配術式」そのものだということなのだ。

そして、それはクンダリーニ覚醒やカドケウスの正体を知っているあなたなら判るように、人間装置の構造に合わせて定義されている。宇宙の本質や構造を踏襲しつつ歪曲し、すり替えてきたシステムなのだ。よって、この「宇宙の構造」をすべてに通じる普遍的な法則として信仰する魔術師は、囚われの魔術師であり、それをハッキング可能な文明の基礎として戦略的に利用できる錬金術師は、世界を根底から覆すような錬成に入れるのだ。

ということは、ミクロコスモスも同じだ。ヘルメス主義者たちがいう「照応の原理」を思い出してほしい。それは大宇宙であるマクロコスモスと、小宇宙であるミクロコスモスの共鳴を指す「形の錬金術」なのだ。あなたと私はすでに、この記録を通して形の錬金術を使っているし、術式解体の秘密も入手している。よって、ここからは個人のマインドに設置された、見えないインプラントを解除するための対策を検討したい。

個人のマインド、そして遺伝系。これは、顕在意識と潜在意識・無意識の関係で捉えても概ね問題ない。ただし、それでは足りない。最初に理解しておくべきなのは「人間装置に備わっている意識と、それを借りている意識は異なる」という基本仕様だ。

それが認識されると、私たちの意識はモノゴトを主観の延長上にある客観として、人間装置、すなわち肉体に備わっている遺伝ネットワークやデータベースを知覚することが可能になる。これが、事実を感情と切り離して考えることや、自分を俯瞰する努力として実践されているものだ。

意志力や根性でそれを実現しようとする、錬成に失敗する。しかし、システム仕様や情報構造を把握した後に、テクノロジーとしてそれを実現しようとする、より円滑に事は進む。さらにいうと、人類の集合意識が共通認識として持っている「宇宙の構造、世界の真実」を継承せず、純粋な状態から錬成を行うことで、他人の魔術基盤を継承することを避けられる。

これが、真の錬成に成功した錬金術師たちが「知覚する世界からの脱出」として暗示してきた術式解体であり、それは遺伝、歴史、文化、そして生活習慣によって強化されてきた、マインドのインプラントを解体することにつながっていく。

マインドのインプラントとは何だろうか。それは多様で多岐にわたるので、均一・均質な装置ではないが、これだけはいえる。それは「これはこういうものだ、だからこうなる」という共通認識、集団心理、信念体系、個人的な思い込み、行動規範の形で認識される。

もちろん、先祖や親から受け継いだ遺伝的なインプラントもあれば、社会やグループによって醸成された非常に固くて厄介なモデルも存在する。それらがたくさん絡み合って、妨害術式が強力なホログラムとして現実化し、幾度となくあなたの魔術や私の錬成を失敗させてきたのだ。

よって、私たちは戦略的かつ忍耐強く、このホログラムの基である大量の術式に取り組みなければならない。それは、現代風にいうと実装可能なモデルであり、フレームワークとして提供されているものだ。あえて、それを採用せず、徹底的に浄化・解体することで賢者の石は得られる。

第4章：第五元素の目覚め - 2030 年の未来に向けた進化への道



生きづらい人にピッタリの道

魔術師や錬金術師。超古代の重要な職業であり、現代文明で迫害されてきた人々。近い将来、段階的に顕現する、新しい文明とその構築ステージにおいて重要な役割を果たす道。これから数年かけて、どんどん活性化していく専門分野。

そのトリセツ、素質や業務内容については、これまで触れてきたとおりだ。しかし、ここで改めて「向いている人」について述べておきたい。どんな職業にも適正はある。これは私個人の見解ではあるが、次のような傾向を持つ人が向いていると思う。

それは、社会に適合できず苦しんでいるギフテッドな人々。先天・後天に関わらず、左利きではなく「両利き」な人々。最初のきっかけは何であれ、環境や生命を尊重するヴィーガンやベジタリアン。モノゴトの本質を見極め、システム分析するのが得意なメカニック。アイデアやコミュニケーション内容を立体的な情報構造（つまりホログラム）として展開し、他者とは異なる視点で問題解決に取り組みながらも、搾取され無視され続けてきたクリエイター気質な人々だ。

もっと言うと、実話や神話を鵜呑みにせず、アニメやファンタジーですら研究対象とし、類推・類比で深読みできる連想ゲームの得意な人々。そして、魔術や錬金術の「しくみ」が非常にシステマチックであることに気づいている人々。モノゴトを直線的ではなく、オブジェクト指向で捉えることができる人々。最後に一番重要なのが、それらの叡智やテクノロジーをフル活用して、この世界をより良い場所に変えたいと願う、強い気持ちを持つ行動派だ。

これらの傾向に共通するポイントは「生きづらさ」だ。多数決の社会で潰されてきた小さな声だということ。均一・均質な文化慣習において、いつも望まない役割を強いられてきたということ。そして、大衆にとっては妄想や精神病としか思えない、特殊な気づきを持っているということだ。彼らはソーシャルメディアで大声を上げることはめったにないし、職場でも目立たないか、攻撃の対象になっていたりする。

実は、そういったネガティブかつ克服すべき社会の弱点として、これまで排斥対象だった人々は、これからはじまる文明刷新・構築に必要とされる「花形職業」に就くだろう。なぜなら、惑星のエネルギーが変わっている、高まっているということは「情報密度が高まり、認知負荷が増大する」ことを同時に意味しており、それは多数決で優位だった傾向には厳しい環境となるからだ。おそらく、彼らは自身の環境適合で手一杯になってしまい、能動的かつ高度に分散化された自律型の組織として、大量の情報とエネルギーを瞬時に扱うことは極めて難しくなる。

このステージはすでにはじまっている。いつからはじまったかというと、2020年あたりだ。これから2030年までが、大衆にとっての「環境適応フェーズ」であり、少数にとっては「文明構築フェーズ」となる。これは優劣の問題ではなく、これまで述べてきたような傾向を持つ、ゼロイチの立ち上げを得意とする人々が担当する工程であり、文明を錬成する時代になることを意味する。あとに続く工程で、拡大・改善の得意な集団が活性化し、舞台に登場することだろう。先発組が発明で、後発組が革新を担う。

ここで重要になってくるのが「活性化」である。

この活性化は、錬金術でいう四大元素の解体と第一質料の発見からはじまる。現代風にいいかえると、それは「徹底的な断捨離」ということができる。ゆえに、ヴィーガンやベジタリアンに向いているのだ。両利きも同じだ。つまり、固定観念や文明のクセを解体し、他人の魔術プラットフォームで踊らされるのを止め、本質から再スタートするような人々だ。

活性化の過程としてわかりやすいのが、心理学でいう「シャドウ・ワーク」だ。これは本人が無視・封印してきた、意識や感情の統合を指すことが多い。テクノロジー的には、闇であろうが光であろうが、条件づけされた意識とエネルギーを解放することを意味する。

サーバー管理者にわかりやすいように補足すると、ログファイルがディスク容量や論理パーティションを圧迫し、プロセスが機能しない時の対応と同じだ。不要なログを消すか、圧縮してテープデバイスや大容量ハードディスクに移動させるのと何も変わらない。それがエラーログであろうが、アクセスログであろうが、差別しないはずだ。あなたは、エラーログを闇の陰謀として糾弾し、アクセスログを光の勢力として大切に保管するだろうか？

よって、可能な限りバイアスを避けるために、パソコンでいうメモリ領域の解放程度に捉えておくことをオススメする。なぜなら、フルリセットからの再スタートというのは、光も闇も、ポジティブもネガティブも、好きも嫌いも、まとめて術式解体することを意味するからだ。スマホを工場出荷状態までリセットしたときの清々しさを思い出してほしい。ちなみに、OSの再アップデートにかかるオーバーヘッド（手間とコスト）は、鉛を金に錬成するための投資だと思ってもらいたい。

このように、古いエネルギーとプログラムを徹底的に解体しつつ落としていくと、第一質料が得られるだけでなく、四大元素のプログラム仕様を理解することもできる。そして、その先にあるのが「第五元素」として知られる、現実創造におけるコア要素だ。そのコア要素は継承系の魔術や錬金術に欠かせない素材でもある。そして、その素材を扱う領域に参入するための異次元ポータルも、徹底的な断捨離の過程で発見される。

意識とエネルギーを扱う超古代文明のテクノロジー、それを担当する魔術師や錬金術師、細かいシステム仕様という知識、加えて秘密の錬金術師ネットワーク、時にシャドウ・ワーク

が必要とされる、ドラゴンと戦う断捨離ステージのような下意識ダンジョン、その先にある第五元素と異次元ポータル。それらすべてが揃ったとき、個人レベルから惑星文明に至るまで、その進化の道を人類が自分たちの手で切り拓くことができるのである。

ゆえに救世主は存在しないし、誰かが変わりにこの「マグナム・オプス」を代行してくれることはない。強いてその存在を定義するのであれば、それは「今まで排斥されてきた世界人口の2-3%くらいの人々」なのだと私は思う。興味深いことに、それはイノベーション曲線とも一致する。

第五元素の正体、文明の課題

第五元素、クイントエッセンス。あなたはその正体をすでに知っているだろうか。

スピリチュアル産業に深く没入しすぎていると、何でもエーテルとして定義しようとするが、それではダメだ。高い振動や周波数帯域という情報を勝手に「エーテル」と歪曲するのと同じになってしまう。そういう強力なバイアスは今ここで解体し、エネルギーを解放しておきたい。

その前提で、今回も検索エンジン連動型のAIに「魔術や錬金術における第五元素とは何か」を要約してもらおう。バイアスを外してからバイアスを客観視すると、新しい発見があるからだ。

魔法と錬金術の両方において、第5の要素はしばしばエーテルまたは「スピリット」と呼ばれます。地、水、風、火の古典的な元素は、物理世界のすべての物質の基本的な要素であると信じられていましたが、エーテルまたは「スピリット」は物理的なものを超えた高次元の霊的な領域を表していました。エーテルは、宇宙全体または神の概念と関連付けられることがありました。第5の要素のアイデアが普遍的に受け入れられたわけではありませんが、エーテルまたは他の物質であるにせよ、多くの古代文化に存在しました。5つの要素の概念は、現代の西洋秘教主義や一部の現代的な魔法の実践にも存在しています。ただし、これらの概念は科学的に証明されていないため、信念の領域に属するものであることに注意してください。

間違っても、ここで「第五元素はプラズマだ！」と叫ばないようにしたい。そうではなく、この要約を人類の歴史を通じた共通認識、固定観念、解体対象として捉えることがリフレームの出発点だ。その定義は本当に正しいか、問題の設定は適切か、他にもっと別の解釈はないか、という批判的思考と検討オプションを複数持つておくことが求められる。

歴史的背景を考慮すると、理論を成立させるために第五元素という概念を足したようなところがある。四大元素だけでは説明できない現象を、説明可能にするためのアドオンみたいな印象もある。これは、今の科学でも似たようなことが行われては観測や検証が行われている

ので、特に問題はない。ただ、仮説を鵜呑みにする前に、問題や前提を疑うことは極めて重要だ。

その性質上、魔術や錬金術はギリシャ哲学、シュメール神話、バビロニア占星術、クリスチャン・カバラ、金属加工における専門用語など、既存の枠組みを踏襲する形で体系化されてきた。理由のひとつは、共通言語を使った記述があらゆる意味で最適であったからだと思われる。もうひとつが隠れた秘密なのだが、開発済みの遺伝系とプログラム、集合意識のエネルギーを再利用するため、意図的に思想を継承し、橋をかけたのだ。

ここで、第五元素にまつわる用語をまとめておく。それは、エーテル、スピリット、世界靈魂であるアニマ・ムンディ、第一質料のプリマ・マテリアなどだ。スピリットという単語は、靈魂と訳されたり、精霊といわれたり、精神としてカテゴライズされたりする。書店では、スピリチュアリティに関する書籍は「精神世界」というカテゴリーに分類されている。

つまり、捉えどころのない、よくわからない性質の何かを「第五元素」としているのである。マインド、メンタル、スピリットなどの定義と似ている。だから、この惑星の科学で証明されていないし、あらゆる仮説や憶測が飛び交ったまま、何世紀も過ぎてしまったのである。

この捉えどころのない、よくわからない性質の仮想元素を、そのままにしておくことはできない。問題解決と同じで、漠然としすぎているモノゴトは解決できないからだ。それに、私たちが重視するテクノロジーも、それを再現性のあるものとして扱うことはできない。

とはいえ、方法は存在する。テクノロジー的には、現代科学のアプローチを採用し、スタブやモックオブジェクトのように第五元素を扱うのも手だ。そう、第五元素をグラビトン（重力子）のように扱うのだ。ただし、徹底的な断捨離と、大規模な術式解体が必要になる。

なぜなら、歴史を通じてこの惑星文明は「物質 vs. 精神」や「肉体 vs. 霊体」や「アストラル vs. エーテル」などの二項対立をベースに信念体系が構築されているからだ。それは「現実世界 vs. スピリチュアル」や「マテリアル vs. スピリット」などの対立構造として、ニューエイジ思想やスピリチュアル産業で根強く継承されていることを見れば明らかだ。

実は、この考え方をベースに文明を構築するというのは、絶対音感の上に文明を構築するのと同じくらい脆弱な基盤の上にモノゴトが構築されているといわざるを得ない。なぜなら、相対性、スコープ、環境変数などによって変化するようには設計されておらず、ダイナミックな文明ではなく帯域がフィックスされているためだ。よって、そのまま情報密度を高めていくのは極めて難しい。

これから解体しなければならないモノゴトは、私たちが認識する世界そのものだと改めて気づいたはずだ。ゆえに、惑星文明を根底から覆すような威力を持つ術式解体なのである。そ

れを達成するためには、勇氣を持って伝統や伝承、一般常識や信念体系というゲシュタルトを崩壊させなければならない。

第五元素の再定義、進化するテクノロジー

では、改めて考えてみよう。第五元素とはいったい何だろうか？

個人的には、それは複数の性質を同時に持つ、ある種のプラットフォームとして知覚される。モノゴトをシステムとして機能させる統合の役割を果たしつつ、通信プロトコルとしても機能し、各オブジェクトやインスタンスへのインターフェイス（接点）を提供し、ロジックやモデルも内包している。そんな宇宙共通のコンパイルされたバイナリ・プラットフォームのようなイメージであり、それを物質や生命力などの機能や役割として完全に分離することは、もはや不可能だ。

これを論拠にしていいかどうかは別として、私個人の体験からすると、エーテル体もエーテル界もモノゴトは完全に分離して存在していない。環境に文字通り溶け込んでいるようだし、自分の肉体に備わるエーテル体も空間と融合しているように見える。アストラル界として知覚される領域でさえ、形態維持と分離は不可能で、何かを引きずるような感覚や動的なシルエットを感じる。

ゆえに、統合されたプラットフォームでありつつも、アプリやユーザーと一体化しているように知覚される。四大元素と第五元素の関係も同じで、完全に切り離して考えることはできない。硫黄・水銀・塩や三種の神器も同様で、それは分離ではなく一体化したモノゴトの性質（オブジェクトというアトリビュートとプロパティの融合）として捉えるべきなのだ。

ということは、ハードウェア・ミドルウェア・ソフトウェアとして完全に機能や性質を分離できないことを意味する。いいかえると、ハイヤーセルフ・ミドルセルフ・ロウアーセルフという分割は事実上は不可能なのだ。あくまで便宜上、魔術や錬金術では働きかける対象を課題解決領域、つまりドメインモデリングして、目的に応じた文脈・背景を術式として実装しているに過ぎない。

分割できないプラットフォームでなければ「形の錬金術」や「哲学者の卵」といった、あなたと私が今まさに使っている意思伝達の技術は使えなくなってしまう。細胞レベルのホログラムとその集合体としての個体を、惑星環境と相互作用させる遺伝工学も不可能だ。

神道の霊に関する解釈は、第五元素の性質の一部を最も適切に記述しているように思う。神道において霊は「結び・ムスヒ」と解釈されているからだ。そして、分割不可能なムスヒの霊に、四霊もしくは五霊といった性質を定義している。これは分散したモノゴトをシステム

として稼働させるための隠れた器、つまりコンパイル済みのプラットフォームだ。それは霊的・精心的な基盤であり、錬金術の概念とも一致している。

これを単なる宇宙エネルギーとして乱暴に定義することは避けたい。では、第五元素は何を統合し、何を結合し、何を結びつけるのだろうか？

それは、オブジェクト、インスタンス、モジュール、クラス、メソッド、インターフェイスなどだ。いかえると、四大元素で条件づけされ、ある性質を備えたエネルギーやその条件といえる。神秘学の用語で例えるならば、第五元素によって精心のプログラム、現実というホログラム、メンタルな分散データベース、サイキックなコントローラーなどが、アプリケーションやプラットフォームとして成立している。

つまり、第五元素の一部がエーテル体として機能しており、思考様式というホログラムとしても稼働している。それは、分散し細分化されたメンタルなデータを結びつけ、現実という名のホログラムを生成するのに役立っている。肉体を中心にした電磁場も同じだ。それらはエネルギーの条件づけとそれを設計・体験する意識によって運用維持されている。

ゆえに、あらゆるエネルギー体は階層性ではない。次元と同じだ。便宜上、理解しやすいように単純化して階層性で説明されているが、それは単なる地図であり、土地そのものではない。だから55次元なんていう霊的ランクは宇宙の共通認識としては存在しない。そういう幻想を強化しないためにも、私たち技師は地図をもとに土地を体験するし、設計と実装の両方を重視するし、歴史と経験を積極的に統合する。

意識とエネルギーという最も原始的なレベルまで遡って、森羅万象を見直すべきなのだ。

では、この再定義された第五元素や四大元素を使って、どのように文明や現実を創造していけばよいのだろうか。大きく分けて2つの方法がある。そして、どちらか一方ではなく両方使って創造していくことが理想だ。これから、その方法を解説しながら、抽象的な戦略を同時に共有する。

ひとつは、意識とエネルギーまで立ち戻って、スクラッチ開発する方法だ。これを私は「意識テック」と呼んでいる。この開発手法を採用する場合、第五元素や第四元素のことはいったん忘れて、既存の枠組みを徹底的に断捨離し、大量の術式を解体することが求められる。これが錬金術の「賢者の石の錬成」として伝承されてきたものだ。ただし、古代エジプトの性魔術や錬丹術などの肉体改造とは分けて理解したい。もちろん、完全に分けて考えることはできないが。

もうひとつは、既存の枠組みや信念体系を利用する拡張開発だ。スタートアップでいう実用最小限の製品（MVP）を拡大していく開発運用（DevOps）フェーズとして捉えるとわかり

やすい。私はこの開発手法とテクノロジーに「電磁テック」という名前をつけた。なぜなら、既存の電磁場や関連システムを駆使し、まるで時空を超えたレバレッジのように作用させるからだ。電磁テックとはすなわち、心の技術である。

心の技術は多くの魔術師に好まれている。ただし、この方法が効力を発揮するのは、伝統と魔術の目的が一致している時に限られる。一年の周期、月の周期などを見ながら術式を発動させるのも、基本的には心の技術の領域だ。それは伝統という「遺伝系」を型として活用し、実装をレバレッジしたり自動化している。

ただし、例外はある。術者が集合意識や遺伝マインドをハッキングし、改変できるレベルであればシステムの矛盾は解消できるからだ。ただし、想像できると思うが、失敗した時の術の反動もメチャクチャ大きく、ハイリスクな場合が多いので、あまりオススメはできない。

とはいえ、意識テックと電磁テック、両方を目的に応じて使い分けることが文明構築の成功要因だ。例えば、支配構造や洗脳などに関係のある遺伝系やテクノロジーを完全に外して新しい文明を構築したいのであれば、既存の枠組みを継承することは絶対に避けたい。

その時の戦略は「移行先の基盤系ホログラムをスクラッチ開発すること」となる。逆に、純化された肉体と活性化された遺伝子を有機装置としてフル活用したければ、心の技術を採用すべきだろう。

いずれにしろ、どんなモデリングをし、どんなデザインをしているかに関わらず、基本は「意識とエネルギー」だ。そして「振動相似・構造共振」が原則だ。

第5章：現実を操作する、意識 ハッカーという職業



テクノロジーのメリット・ベネフィット

最近、私は動物界に積極的に参加している。特にここ数年は、鳥たちと関係を構築している。最新の試みは、カラスの意思伝達ネットワークに参加することだ。

これはもちろん、魔術や錬金術と深い関係がある。それは動物との通信プロトコルを確立し、その仕様を理解することで、サイキック能力を強化する目的も含まれる。もっと言うと、動物界の課題や主張を理解するためのシャーマン的な活動でもある。

それを「意識とエネルギーを扱うテクノロジー」として、包括的かつ技術的に検討するのが、私たち錬金術師だ。血統と遺伝推しのエリート主義ではなく、汎用化を目指すのがあなたや私だ。

霊媒と儀式が必須であるという、古代の哲学者たちを継承するのがエリート主義的な霊能者であるならば、私たちはそれを人類の必須課題ではなく「活性化のトリガー」という正しい場所に戻すような役割といえる。それはまるで、特定の慣習を普遍的なルールとして強要する文化を最適な場所に再配置し、テクノロジーと共に汎用化することで文明を構築する努力なのだ。

ちなみに、カラスの意思伝達ネットワークに参加するということは、カラスにとってはネットワークに干渉されているような気分だ。情報のリレーに参加することで、ちょっとした混乱や挙動不審な動きを連発することからも判る。それはある種のハッキングだ。ゆえに、面白半分で彼らのシステム環境を混乱させることは避けたい。

このように、あらゆる意識の状態と形態に接続するということは、膨大な情報を扱うことを意味する。特に、感情というフィードバック・ループ（非線形の増幅）とその動きが生み出す渦のようなエネルギーだ。ゆえに、ギフトド、HSP、ヴィーガンなどが感情移入してしまうと、動物の苦しみや悲しみも大量に取り込む結果になってしまう。それは、大衆がまったく気づかない大量の情報、貴重なダークデータだ。ただ、抱えきれないほどの感情エネルギーに翻弄されてしまうリスクもある。

ここで有効なのがテクノロジーだ。それは、これまで検討してきたようにモノゴトをシステムとして分析し、最適な課題解決領域（ドメインとサブドメイン）を定義し、俯瞰した状態から優先的に取り組むべき文脈・背景（コンテキスト）を選出し、構成要素を理解し、改善案を設計（ロバストネス分析）することが可能だからだ。対して、大衆はいきなり詳細設計に突入し、唐突に謎の模倣アプリや定番のマーケティング施策を市場に展開する。

テクノロジー活用は、膨大な情報とエネルギーに漠然と翻弄されるのを避けることが目的だ。そのため、ドメイン、システム、コンテキストという論理境界（結界）を設け、焦点を自己統御する。分析麻痺はプロトタイプ検証とデザイン思考で回避する。このすべての工程を常識では信じられない速度で爆速実行できるのが、魔術師や錬金術師に向いている人たちなのである。ゆえに「優劣ではなく適正」だと理解してもらえたはずだ。

これらの要素を考慮すると、意識とエネルギーをテクノロジーとして扱うことの短期的なメリットが理解される。長期的な利益・公益は、文明構築という大事業、つまり「マグナム・オプス」である。スタートアップや新規事業が好きな人には生きがいとなるだろう。

短期的なメリットという文脈で整理した場合、サイキック能力の強化と自然の書に親しむという、スキルの獲得とハッカーマインドの醸成という、明確かつ客観的な目標・指標がある。それはまるでギフテッド、クリエイター、メカニック、両利き、HSP、ヴィーガンやベジタリアンなどにとって道路標識のような役割を果たす。

その片鱗が見えてきたならば正しい道を進んでいるということだ。これはある意味、大いなる作業であるマグナム・オプスの準備期間であり、投資フェーズでもある。そして同時に、その非線形的な目標や指標が「戦略の青写真」として機能する。魔術的に表現するならば、エーテルに投影・集積した青写真をアストラル戦略で増幅し、戦術的かつ分散型の行動で達成するシステムといえる。

もう少しギフテッドやクリエイターに響く表現をするならば、個人の生きづらさを解決するためのシステムの働きかけが、同時に世界を変革する投資になるということだ。つまり、あなたや私にとっては「顧客は誰か、市場はどこか」という一般的な問いはあまり役に立たないことを意味する。論理境界の前提がズレているからだ。それを世界は「あなたが社会とズレている」と判断する。

これは個人的な見解だが、ギフテッドやHSPの存在理由と生きづらさの原因は、次のようなものだと思う。人類の進化を先取りしているがゆえの辛さだ。つまり、これから大衆がたどる道と課題を端的に表しているのだ。イノベーション曲線を思い出してほしい。

このことが理由で、以前「（大衆は）自身の環境適合で手一杯になってしまい、能動的かつ高度に分散化された自律型の組織として、大量の情報とエネルギーを瞬時に扱うことは極めて難しくなる」と書いた。それは、ギフテッドが特別だということではなく、時期と順番の問題なのだ。遅かれ早かれ、すべての人々がその課題を経験するのだと私は感じている。

ということは、地球温暖化のトレンドと同じで、人類進化というトレンドの「どの部分をサンプリングしているか」によって、捉え方が変わるだけの話だ。ゆえに、複数の課題解決領域を俯瞰するドメインモデリングが役立つ。それが自身の感情やマインドを制御するための

魔術結界として機能する。つまり、ミクロコスモスとマクロコスモス両方に効き目のあるテクノロジーになるのだ。

生きづらさの理由は、それが進化の過程であるためだ。現状維持の文明は進化に対し、異物の排斥や「足を引っ張る」妨害術式で抵抗する。そこには無視や無理解といった、暴力的で攻撃的な側面も頻繁に現れる。それはまるで、古代ケムの人々がアトランティスの生き残りを脅威に感じて攻撃したような状況に似ている。歴史が振動相似・構造共振に繰り返している様相が理解されるはずだ。

ということは、生きづらさと機能不全を解消するために鈍化したり、思考や行動のスピードを落とすのではなく、もっと扱える領域を広げ、速度を活かし、ドンドン先へ進んでしまえば良いのだ。それが癒やしとなるはずであり、同時に惑星の進化になるはずだ。そして、制御可能なドメインモデルとテクノロジーのセットが強力なサポート役として機能する。それが魔術や錬金術だ。

テクノロジーのデメリット・マイナス面

とはいえ、意識やエネルギーをテクノロジーやシステムとして扱うことの否定側面も存在する。すでに二項対立という絶対音感的なフレームの上に文明を構築するリスクについて検討してきたことから、それは明らかだ。つまり、固定観念に発展してしまうのだ。

もっと具体的に調べてみよう。それは「チャクラ・システム」や「マジックナンバー7」を固定のフレームとして森羅万象に適用する態度に現れている。それが否定側面の端的な例だ。つまり、何でも単一のモノサシで理解しようとする、視野の狭さと情報の歪曲につながっていく。

単一のメンタルモデル、単一のモノサシ、単一のアプローチ。それは人類が常に好んで積極的に採用している方法だ。ゆえに、不要な競争や罰則が増え続け、みんな息が詰まってしまう。そういう脆弱で柔軟性に欠けたシステム構造で私たちは縛られているのだ。これを「心の檻と幻想系」と私は名づけた。

例えると「単一のハンマーを持った人類には、すべてが釘に見える」ということだ。これは、AIは万能であると誇大広告する企業や、生成AIに何でも任せられるという詐術で経営者を惑わす手口に強く現れている。私たちは自分で考え、検証しなければならない。

分光は固定ではない。現在、私たちが集合的に知覚し、フォーカスしている領域がその帯域というだけなのだ。同様のスペクトルで表現される、チャクラ・システムも同様だ。それは

森羅万象を記述できるようなモノサシではないし、倍音や母音のように（基礎となる）全体を含んでいながらも部分でしかない。この考え方は四大元素と第五元素にも当てはまる。

よって、何でもチャクラで考えようとするのは問題だ。オーラですべてが理解できると考えるのも傲慢だ。同じく、私たち魔術師や錬金術師も、一度定めた論理結界を固定させることは避けなければならない。魔術結界を永久に固定してしまうこととイコールだからだ。

このことは数学的にも理解できるはずだ。バビロニアではゼロを含まない「60進法」をシステムとしていたわけだし、人類が認識する「9進法」をゼロを含まないシステムに変更し、文明基盤として運用することだって可能なはずだ。一般的に普及しているコンピューターはデジタルな「2進法」演算を行っている。スマホも同様だ。

フィールド・レコーディングの本を読むだけでなく、実際に山に出かけて自然のバイブスを録音してみることをオススメする。そこにはあらゆる帯域に多様な質感を持った音の世界が広がっているはずだ。それをリアルに聞くのと、モニターするのと、帰宅してからチェックするのではまったく異なる様相を呈しているはずなのだ。

なぜそのような違いが生まれるのだろうか。それは、環境が変わったからだけでなく、自分の意識やマインドの状態も変化しているからだし、デバイスを通すとフィルターされてしまう音もあるし、可聴領域外の情報を「質やバイブス」として人間装置（肉体）が感知しているからだ。

つまり、単一のメンタルモデルやモノサシでは理解できない課題解決領域（ドメイン）が複雑に絡み合っただけで世界は構築されている。それは階層性ではなく、絡み合いとして知覚されるはずなのだ。それを分光や7つのチャクラだけで説明することは乱暴すぎるのではないだろうか。

同じことが量子にもいえる。量子力学・物理学はテクノロジーではなく学問・理論・科学ではあるが、そのモデルやモノサシですべてを説明しようとするスピリチュアル産業は、非常に不思議な世界だ。理論に変更が加えられたら、どんな事が起こるのか興味深い。

現実というホログラムは、私たち人類が顕在的に認識しているより、もっと複雑かつ大量の情報で構成されている。現代のテクノロジーで例えるならば、水晶ストレージの同一領域にあらゆる情報が書き込まれているようなイメージだ。しかも、階層性になっているのではなく、機織り機で立体的に織られた布のような多次元的な網の目として存在している。それを時空間として説明するのであれば、多元的なネットワークとノードとして知覚される。

では、テクノロジーの否定側面、固定観念をどのように克服すれば良いのだろうか？

それが、ギフトである。加えて、クリエイター、メカニック、HSPなどである。彼らはひとつのテーマをこれでもかというほどあらゆる観点から検討し、分析し、批判的思考で多角的に観察し、時に破壊し、まったく異なるモノゴトとの関連性を探し出し、成果に改良を加えて再構築するセンスを持っている。

これは、魔術や錬金術で行われる破壊と創造のプロセスとまったく同じだ！

この徹底した働きかけを古代の錬金術師たちは「乳鉢で物質を最小単位まですり潰す」という比喻を使って表現してきた。それこそ、現状維持の四大元素・第五元素を解体して、第一質料であるプリマ・マテリアを得るための作業なのだ。それが浄化の本質だ。

つまり、魔術や錬金術に適正を持った人々が、生きづらさを克服するためにテクノロジーが役立つし、適正を持った人々が「心の檻と幻想系」というフレームを超えて作業することで、否定側面を克服することができるのである。知覚できる理（フレーム、ルール）を超えて作業するのが、魔術師や錬金術師の仕事なのだから当然だ。

扉が開く！相反するモノゴトを統合する

こうして、意識とエネルギーをテクノロジーとして扱えるように環境を整えていくと、面白いことが起きてくる。それは「今まで相反すると思われていたモノゴトが相反しなくなる」という現象だ。新しい世界へのポータルにアクセスすることが可能になるのだ。

これは、魔術や錬金術でよく描かれる「太陽と月の結合」や「王と妃の結婚」として表される、二項対立の解消だ。それは、端的にいえば陰陽両儀であり、電磁場であり、物質と精神の境界が消滅するという体験になる。なぜ、相反していたモノゴトが相反しなくなるのかというと、これがすでに述べた「すべてのモノゴトは完全に分割できない」ということにつながっていく。

意識は分割できない。解体して浄化され、原初の状態に戻されたエネルギーも分割できない。そして、意識もエネルギーも二項対立の条件づけは「もともととされていない」からなのだ。二項対立というのは、いうなれば四大元素による人為的な条件づけであり、宇宙や自然環境と私たちが相互作用できるように考え出された叡智なのだ。

ゆえに「対立しているように知覚されるが、実は対立などしていない」という真実の扉が開くのである。このワンネス思想はスピリチュアル産業ではテンプレなのだが、実際の言動を観察していると、本当に理解している人々はほとんど存在しないことが判るはずだ。

本当にそれを理解しているのであれば、二極化マーケティングはしないからだ。さらに、光と闇の勢力という条件づけで対立構造に強いコントラストをつけることもしないだろう。高

次元存在とアセンション信仰に代表される「ランキング」を定義する氣すら起きないはずだからだ。

そういう「古い固定された単一のモノサシ」を外した先にあるのは、清濁併せ呑んだ光などではない。意識とエネルギーなのだ。いいかえると「一者と第一質料」なのである。それ以外のすべては、条件づけされたプログラムとホログラムである。

本当のシステム境界は存在せず、明確なコントラストも存在しない。個人的には創造・維持・破壊のサイクルでさえ、トレンドやサンプリングに過ぎないと感じている。サンプリングも条件づけだ。光という認識もプログラムされた結果だ。すべては柔軟かつ無限で、あらゆるモノゴトが創造できる高度なテクノロジーによって構築され、複雑なホログラムのように知覚されるはずだ。

本質的な意味において、目覚めと眠りの二極化などはない。それは誰かが「ここまでが眠り、ここからが目覚め」という基準（ビジネスルール）を設定したからそうなっているだけなのだ。ゆえに、そのルールに同意できない場合、別にそのビジネスに関わらなければ問題ない。

これで、アセンションや波動上げにまつわる余計な心配や不安は払拭されたはずだ。

このように、魔術師や錬金術師は徹底的に世界という「自然の書」を読み倒し、解体し、再構築する職業なのである。ゆえに、ギフテッド・クリエイター・メカニクな人々に向いている。そして、何らかの方法で「両利き」になった人々には、この対立解消とそれによってもたらされる世界の広がり、体験から理解されるはずなのだ。

一方、魔術や錬金術に向かない人々には、この「徹底的で広範囲な検討、信じられないほどの速度、情報や理論の膨大な量、戦術的な変更の多さ」が嫌になって途中で諦めてしまうはずだ。これは、アプリ開発を手続き型のフローチャートとして扱うか、手続き型も活用しつつ、オブジェクト指向で直線時空を超えて作業できるかの違いなので、職業上の適性として認識されることになる。

魔術師や錬金術師が現代のスピリチュアル産業を理解しようとする時、どのようなアプローチを採るか、ここでサンプルを挙げておきたい。それは「すべての情報は何かしらの真実を含んでいるので、すべてをパズルのピースとして網羅・解体・構築してみる」という設計工程になる。

その過程では、徹底的にスピリチュアル産業に没入する段階もある。そうしないと、余計なバイアスが邪魔になってモノゴトをそのまま受け取ることができなくなるからだ。外側から見たら、メソッドやセミナーを渡り歩く人々と何も変わらないように見えるはずだ。

その後、分析や統合の段階がある。そこで漠然としたよくわからないモノゴトを徹底的に検討し、分類し、フレームワークを構築し、ある種のシステム理論をつくりあげる。そして、その理論が現実世界で再現可能か、あらゆる状況で徹底検証されるのだ。この狂気にも似たこだわりと一貫性が、世界が私たちを異常者として排斥する原因なのだと思う。

なぜ徹底的な働きかけが有効かという点、それは作戦術とレバレッジに関係がある。レバレッジというのは「テコの原理」であり、少ないエネルギーで多くを成し遂げることを指す。それはシステム思考でも頻繁に言及される分析手法だ。レバレッジの特定は、錬金術という「賢者の石の錬成」によく似ている。それは強みにも弱みにもなる。

人類や惑星の進化という文脈で分析するならば、そのレバレッジは破壊的イノベーションとして顕現する可能性もあるからだ。さらにいうと、敵対勢力を弱体化させるレバレッジの特定は、非常に強力な戦術として展開可能だ。誤った選択をすると、現代のAIやITのように「逆レバレッジ」として人々を振り回し、不要なコストを強いる問題へと発展する。

それを「意識とエネルギーを扱うテクノロジー」として、包括的かつ技術的に検討するのが、私たち錬金術師だ。そして開発されたテクノロジーは、後に文明という形になって人類に貢献することになる。つまり、新しい文明を構築するというスタートアップは「サービスとしての文明」という表現が私にはシックリ来る。

最後に補足。錬金術書を読んでいると、二項対立の解消を表すシンボルが必ず「二重、三重」に定義されていることに気づくと思う。例えば、太陽と月の上に乗った王と妃という具合だ。これは何を意味するのかという点、個人的には「ロジックと中身」だと捉えている。

四大元素というプログラムとそれを通過するエネルギーの性質である。いいかえると、アプリとデータの関係だ。このことが理由で、モノゴトをオブジェクト指向で捉えることが自然の書を読む鍵になる。そしてその大宇宙的な文明システムは、太陽系の惑星たちと電磁的に相互作用している。それが、劣化して伝わってきたのが占星術や占いである。

第6章：新時代の到来、隠された テクノロジーを解き明かす



文明とエネルギーの深刻な問題

ここ数年、プライバシーがとても騒がれている。特にデジタルやオンラインという文脈においてだ。一方、企業や経営者はデータのことを新しいオイル（石油）だと騒いでいる。アンダーグラウンドでは頻繁にデータが漏洩し、大量の個人情報が取引されている。システムをクラックして、ビットコインで「データの身代金」を払うよう脅迫するケースも報告されている。

興味深いことに、一部の経営者は、そんなアンダーグラウンドな事件にはまったく関心がない。自社における顧客データの扱いは雑で、サービス規約はどこかのサイトのパクリだったり、プライバシーポリシーはほとんど考慮されていないのが現状だ。

ちなみに私も、最近改めてセキュリティとプライバシーを見直し、ゼロトラスト環境の入れ替えを完了し、ツールの移行計画に着手している。これは自分自身のプライバシー保護というより、文明構築を担う団体や個人を不要な妨害術式から保護するための投資だ。

そんなデジタルな世界で、あなたや私のような錬金術師は別のことも考えているはずだ。売上に執着する大衆と距離をとりつつ、可能な限りセキュリティも考慮しながら。

プリマ・マテリアこそが真に純粋なエネルギーであり、その無尽蔵なポテンシャル・エネルギーを何らかの方法でキネティックなエネルギーに変換するテクノロジーが必須であると。決して、大衆の個人情報から抽出（精製）されたデータ（オイル）で心理操作する黒魔術ではないのだ。

この記録でも、生データを第一質料に例え、AIやITシステムによるデータ活用を「四大元素による条件づけ」として説明してきた。そして、第五元素をそのコンパイルされた統合プラットフォーム（霊的基盤）として説明してきたのには重要な理由がある。

それは「文明を構築するためのテクノロジーをオープンソース化する」というミッションだ。このオープンソース・テクノロジーを使って世界をシステム分析してみたい。

経済界が個人データを新しいオイルと騒いでいる現象だが、実は歴史は繰り返すという相似ループだ。そう、振動相似・構造共振な事象である。それは、もう少し隣接する別の要素を検討してみればわかることだ。

例えば、クリプトとブロックチェーン。これはゴールド支配の移行先として設計されている。マイニングの概念やブックキーピングのインターフェイスを継承していることから明らかだ。さらに、メタバースやソーシャルメディアがある。これは社会インフラとしての機能を維持するため、現在の文明をそのまま移管させるために開発されたようにも見える。

そして、デジタルデータだ。それはゴールドという強い資本、通貨という流通資本、オイルというさらなる資本と利権のポートフォリオをデジタル世界に継承できるよう設計・実装・展開されてきた大魔術の一部。そのように、私は確信している。

更新：古代から続いてきた「投資・隷属」の黒魔術を解体するにあたり、クリプトとブロックチェーンの技術が（マネーシステム終焉までの）一時的な解決策として利用される気配もある（2024年12月現在）

このデジタル化・自動化・DXという「デジタルな変容」の向かう先だが、結局のところ「より仮想化された同一文明へのシステム移行と管理強化」なのである。ということは、手法が変わっただけで、内容は何も変わらないということだ。

重要なのは、この流れは本質的に「人類の進化とは逆方向へのシフト」であるという衝撃だ。それは、より管理しやすい情報構造と、限定された空間に人類を囲い込むための（非常によく考えられた）戦略であると分析される。そこに統計確率のAIが精度を爆上げして台頭し、あっという間にコモディティ化したのも、そのための大魔術が長年実行されてきたからなのである。

このように、他人の術式を解体し、新しい文明を構築するためには、再現性のあるテクノロジーが必須となる。それは文明のレバレッジである「術式量産テンプレート」として機能するだけでなく、文明の集合意識、遺伝系というOSを最適化するために必要なツールとなるだろう。

意識テックのオープンソース化

では改めて「意識とエネルギーを扱うテクノロジー」とはいったいどんなものなのか、その秘密をオープンソースとして公開する。これはある意味、意識におけるシステム統合になるはずだ。

これまでの歴史を振り返ると、この手の情報は断片的、もしくは一部だけ切り取られ、都合よく歪曲され、願望実現の秘密や成功法則としてラッピングされ、誇張され、販売されてきた。最近では、秘儀を伝授すると派手に広告し、高額なセミナー料金を請求する情報ビジネスも多い。もしくは、伝統的な信念体系を鵜呑みにするよう強制されたはずだ。

情報の秘匿と非対称性を常套手段とする、ピラミッド型の支配構造や二項対立ベースの戦術を含め、それが人類の歴史だ。

一方、私たち錬金術師はいつだって別の道を選択してきた。知識は石の素材同様、すべての人が無償で手に入れることができ、本人の意志と努力次第でいつでも作業がはじめられるものである。比喩やシンボルが多いのは、言葉では表現できない複雑な内容をそう表現する

しかなかったというのが最大の理由だ。秘匿目的で暗号化されている表現は、ほとんどないのである。霊的検閲に抵触しないよう、情報の断片化は行われていたのであるが。

暗号化されているように感じるのは、すでに述べてきたように「公開鍵、秘密鍵、パスフレーズ」に関する問題だ。無償だが、ポータルに接続できるかどうかは本人の意志・努力・宣言（つまり意識）によるところが大きい。オープンソースのテクノロジーを利用する場合とまったく同じだ。

この暗号化に関する矛盾は、情報セキュリティと暗号化を二項対立ベースで捉えるのをやめた瞬間、あっさり解ける。それはパーソナライズと適正であり、楽器の調律のようなものだ。調律されていない楽器でバンド演奏することを想像してもらいたい。このパーソナライズと適正、つまり調律を情報の秘匿と非対称性に応用したのがビジネスだ。

どうしてパーソナライズや調律と暗号化が関係するのだろうか？

私は過去、DebianやRedhat Linuxを使い込んできた。ゆえに、dpkgやaptに精通していたし、rpmパッケージの運用もこなしてきた。物理ディスクの論理パーティション設計からBind、djbdns、qmail、Postfix、各種POP3やIMAPサーバーの運用、MySQLのレプリケーションやTomcatとの格闘、仮想化やSANの研究、Ansibleによる一括管理、デプロイの自動化まで行ってきたわけだが、これらはオープンソースであっても、最初は暗号化されている秘密のようだった。

これを読んでいるあなたが技術知識を持っていなければ、上記すべての単語は暗号化されていると感じたはずだ。とはいえ、IMAPサーバーの定義と仕様を解説しようとする、それだけで本が書けてしまう。それと四大元素や第五元素というのはまったく同じだ。

しかし、オープンソースであるということは、あなたが意志をトリガーにパソコンを用意し、ネットからLinuxのOSイメージ（テンプレート）をダウンロードすれば、いつでも無償で研究をはじめられることを意味する。魔術や錬金術もまったく同じで「やるかやらないか」の違いでしかない。

ということは、意識とエネルギーを扱う錬金術というテクノロジーは、超古代からオープンソースであったのだ。いつの時代からか、それは秘儀として隠され、エリート主義に組み込まれるようになってしまった。ゆえに、その問題となる文明の基礎構造を術式解体することが必要だ。それが文明レベルのゲシュタルト崩壊なのである。

意識テックのフォーカス

ポイントは、このオープンソースなテクノロジーが何に焦点を絞っているかということだ。いかえると、どんな設計思想のもとに、どんな課題解決領域を定めているか。その定義を明確にすることが、汎用化と一般化の観点から必要になってくる。

意識とエネルギーを扱うテクノロジーは、基本的に「意識でエネルギーを扱う」ことを起点としつつ「遺伝と人間装置」を研究対象にしている。つまり、大きな領域は「意識」であり、個別分野が「遺伝」ということになる。銀河系や太陽系という環境分野は、さらに細かい課題解決領域として定義される。

このことが理由で、私は意識とエネルギーを扱う最も基本的なテクノロジーを「意識テック」と呼んでいる。そして、遺伝子や環境というサブドメインに特化したテクノロジーを「電磁テック」と分類することにした。電磁テックは後に「心の技術」として再定義された。銀河系というプラットフォームや、物質として認識されるオブジェクトは、この分野で研究されている。ただし、実際の境界は存在しない。

意識テックとその研究領域は、必要以上に複雑な外部装置に依存することを目的としない。それらは意識科学に立脚したテクノロジーを基本とする。ゆえに、遺伝工学は意識工学の一部として存在している。つまり、意識テックに心の技術が属するという依存関係だ。

その依存関係は、問題解決における「インサイドアウト」な変容として捉えることが可能だ。端的に表現するならば、内面に集中するテクノロジーが意識テックである。インサイドアウトとは、外部要因を考慮する前に内的世界を探求する手法だ。つまり、システム思考における「最も強力なテコの原理」を最初に発見しようとする手法だ。

ただし、通信プロトコルは常時双方向であることは忘れないでおきたい。そうでなければ、観測可能な世界なしにブラックホールを研究するような、実に不毛な努力を強いられるからだ。外界の探究内容を内面世界と等しくすることが成功要因となる。

それが、アタノールや道教廟に置かれている炉が人間装置を表しているという、以前開示した内容へとつながっていく。対象は「自分自身」であるということだ。帰納的に人間装置（や環境）を研究することが、意識をテクノロジーとして活用することにつながっていくからだ。これは人類の歴史で「根源への回帰」として伝承されてきた。

電磁テック（心の技術）のフォーカス

先ほど、ネットからLinuxのOSイメージ、つまりテンプレートをダウンロードすれば、いつでもオープンソースの研究がはじめられると書いた。これは遺伝子も同様に、心の技術も同じ要領で開始できる。それがマインドやハートをターゲットにした魔術や錬金術だ。

むしろ、ダウンロード不要な研究対象が遺伝子だ。あなたはすでに遺伝子を持っている。その遺伝子は単なるローカル・ストレージや断片化されたコードではない。もっというと「ジャンク」なDNAなど存在しない。直線時空を超えた遺伝ネットワークとして機能している。ゆえに、オープンソースな心の技術を今すぐ研究できることになる。

それは、地球というデータセンターの、日本というラックの、人間装置という物理サーバー上にマインドという仮想OSがセットされ、遺伝ネットワークで世界とつながっているシステムなのだ。蛇足だが、ハートに関する感知システムはBluetoothのようなイメージだ。非常に高度なテクノロジーである。この広大なシステムに高度なテクノロジーで働きかけるのが魔術や錬金術の正体だ。もっというと、操作しているのはあなたの意識だ。

実際は、物質の役を演じている意識とエネルギー、マインドの機能を担っている意識とエネルギーである。ゆえに、現状維持の四大元素を解体すると、第一質料が得られるのである。このことはホログラムとして全体を知覚できれば矛盾はないし、オブジェクト指向で考えることに慣れていれば、継承構造を理解するのに苦労はないはずだ。

ではここで、伝統や伝承を否定することなく、テクノロジーに統合していく。それによって、遺伝系と戦うことなく、システムとネットワークを最適化できる。いいかえると、潜在意識や無意識と対立しない道を探すということだ。

まず押さえておきたいのは、四大元素、四魂、カバラ4つの世界などは「意識のフレーム、エネルギーのプログラミング言語、結界術」であるということだ。つまり、現実というホログラムを開発するテクノロジーの基礎である。心の技術は遺伝子と関連システムに働きかけるので、まずはこの仕様を理解しておきたい。これは第五元素の概念にも共通する。

混乱を避けるポイントをひとつ。意識やエネルギーをテクノロジーとして扱う場合、情報とエネルギーは完全に分離できないことを理解しておきたい。ITのようにコーディングとコンパイルされたバイナリデータのようにはなっていないのだ。あくまで便宜上、そのように分類することで結界術を行使しているのである。

人間装置を結界術でモデリング

では、この意識テックと電磁テック（心の技術）の応用に入りたい。題材はもちろん私たち自身だ。個別意識と人間装置である。

まず、個別意識を除いた人間装置の大まかな構成要素は4つだ。それは「自我系、遺伝系、感情ループ、肉体」である。いいかえると「流出、創造、形成、行動」の世界で構成されている。その構造は四大元素の「地、火、水、風」により形成されている。神道でいう「荒魂、和魂、幸魂、奇魂」がそれだ。ヘルメス思想でいう低次マインドとしての魂である。

そこに第五元素というプラットフォームが敷かれているイメージだ。第五元素は複雑怪奇で精妙なので、以前提案したように、スタブやモックオブジェクトとしてインターフェイスを確立しておくのも手だ。なぜなら、第五元素はアプリと深く融合しているインフラのようなものだからだ。

ここではあえてニューエイジ的なエーテルやアストラルの概念は採用しない。なぜなら、現代のスピリチュアル産業とその情報には、多くの誤解や歪曲が含まれているためだ。用語の背後にある精神や意識を調査・選別するだけで膨大な時間を要するため、採用は見送ることにする。

この構造を別の観点からモデリングすると、次のようになる。

それは「ハイアーセルフ、ミドルセルフ、ロウアーセルフ」という魔術システムだ。もしくは「スピリット、マインド、ボディ」という解釈になる。錬金術的には「硫黄、水銀、塩」である。三種の神器のアナロジーでは「八尺瓊勾玉、草薙剣、八咫鏡」になるだろうか。剣は判断を暗示しているので、マインドに関係があると見て問題ないはずだ。

テクノロジー的には「ソフトウェア、ミドルウェア、ハードウェア」という区分になる。そして、プログラムの的には「エンティティ、コントローラー、バウンダリー」もしくは「モデル、コントローラー、ビュー」という分析となるだろう。このプログラムの概念的な概念の応用は、今後の文明構築において極めて重要な概念となるはずだ。

このように、ザックリ分けると3つのサブドメインをまたぐようなネットワークとノードとして文脈・背景が存在し、細かく分類すると、4つのシステム領域の上に現実というホログラムが投影されていることになる。それを意識が「意を発し識を得る」要領で活用している。

これが現状維持の文明の正体である。それは遺伝ネットワーク（と環境との相互作用）を通じて管理操作され、遺伝設定の投影が人類の表現となって外界に顕現するというメカニズムだ。ゆえに双方向ではあるが、インサイドアウトなのだ。

ちなみに、ヘルメス錬金術でいう宇宙構造の最上位に位置する、エホバというアーキタイプが遺伝ネットワークの原型であり、支配的な通信モジュールであり、現状維持の文明のコアだ。このコアをどう扱うかが、これからの文明に大きな影響を及ぼす。

ポイントはマインドの分類だ。個別マインド（自我系）なのか、遺伝マインド（遺伝系）かである。後者のほうが潜在意識や無意識と関係があるので、ピンポイントしたいときは遺伝系というサブドメインを切ったほうがいいと思う。そうすれば、解決策が血族や人類の集合的な思考・想念パターンに働きかけるかどうかを決定できる。

錬金術の伝統では「まず水銀から作業をはじめるように」という指示がある。これは何を意味するかというと、マインドである。それはロウアーセルフやエーテルとも解釈されてきた。心の技術で記述する場合、自我系と遺伝系だ。特に、遺伝系である。

遺伝、歴史、文明などの影響で大量に蓄積されてきた思考・想念パターン、共通認識、バイアス。そしてその部品・型・枠・原型などの組み合わせで発動する感情の増幅。つまり、感情エネルギー。混沌とした水銀のような資源の海（リソースプール）であり、ソースコードの貯蔵庫（レポジトリ）だ。その中から実装したいモジュール、クラス、モデルなどを選択して、私たちは活動している。

ゆえに、魔術師や錬金術師は「意志」と「本当に必要な資源」を抽出するために、徹底的な断捨離と浄化を行うのである。いいかえると、どのソースコードをクローンし、どんなブランチで開発するかが結果に影響を及ぼす。心の技術では、それが成功要因となる。

7天体と7つの金属も同様だ。分光、チャクラ・システム、音階などだ。太陽と月を含む天体の影響というのが文明の基礎に組み込まれている。これは心の技術の領域であり、遺伝系に蓄積されてきた考え方であり、プログラムであり、ネットワークであり、エネルギーとなっている。それをどうハックし、実装するかでエネルギーの扱いも変わってくるのである。

新時代のテクノロジーとエネルギー

エネルギーとは作業を完了するための動力源であり、それは動きである。動きとは宇宙共通の「ことば」であり、動的な条件づけ、つまり四大元素という心のプログラミング言語によるコーディング（仕組み）である。質量は形態を求めるという錬金術師の伝承は、型枠（心構え）を定義、実装した時点でエネルギーが流れることを示唆しているのだ。

いってしまえば「哲学者の卵」自体が量子的な結界術であり、そこにエネルギーが集まり、流れることで力を発揮する。その型枠を現実世界の触媒となるまでレバレッジ・ポイントを特定し、実装するのが「賢者の石」というわけだ。それはあなた自身のことだ！

ということは、ドメインモデリングや結界術がエネルギーを扱うテクノロジーとして、新しい文明の基礎を担うことになる。そのテクノロジーが遺伝系を解体し、最適化し、刷新していくことになる。電磁テックである以上、ポテンシャル・エネルギーは電磁エネルギーのようなキネティックなエネルギーとして扱えるようになっていく。

マインドというプログラムされた単位・部品が組み合わさってマインドセット（心構え、思考様式）になり、それが蓄積・共有されると遺伝系となる。その遺伝系を現代人は潜在意識や無意識という階層構造として認識している。それは、すでに膨大なエネルギーの貯蔵庫と

して機能している。その遺伝的なポテンシャル・エネルギーから秩序を引き出すのも、心の技術の役割だ。ちなみに無意識は遺伝系と仮想宇宙にまたがって存在していると考えれば、宇宙構造が人間系とつながった広大な仮想系であることに気づくはずだ。

遺伝系には膨大な「コーディング・パターン」が存在しており、それがあある種の「モデルやクラス」として格納されている。その格納庫はマインドにとってのソースコード・レポジトリとして機能しており、そこには大量の思考・想念パターン、各種マインドセットの構造、集合的なメタデータなどが含まれている。さらに、分散している断片的なメンタルデータをファイルのように関連づけている。レポジトリの隠れたバージョン管理システムとその構造が、遺伝的なものとして知覚されるわけだ。

これらを効率よく管理操作（支配）するために、デジタル化と統計確率ベースのAIは最適かつ強力なレバレッジだ。それを今後どう扱うかは、文明のコアをどうするかで決まる。

伝統的な表現で置き換えると、創造というオークの巨木に接ぎ木をするような魔術がこのレポジトリとブランチの関係そのものだ。それはネットワーク型の仮想OSとソースコード・レポジトリが一体化したようなAPIで接続された仮想世界として透視される。そのプラットフォーム上に、あなたや私という個別化された仮想マシンのインスタンスが稼働している。

これが、錬金術師が「水銀から作業をはじめるように」と指示してきた理由なのである。

正しいレポジトリ、適切なバージョン、継承すべきモデルやソースコードを意図的に選ぶことが非常に重要だ。これはテクノロジーに振り回されない生活習慣ともいえるし、潜在意識や無意識によって自動的に生かされているゾンビ状態からの復活を暗示している。

遺伝系や集合意識は、魔術師が見ている月であり、錬金術師が最初に取り組むべき水銀である。別の表現では、ロウアーセルフや潜在意識になるだろう。つまり、純粹意識の状態から、水銀を調べるわけだ。それをシステム設計・開発として捉えると、あなたや私が意識とエネルギーをドメインモデリングしているということになる。

つまり、心の檻・幻想系・遺伝系・仮想宇宙として知覚される、宇宙意識に到達することが重要なのではない。それは幻想の範囲から一步も出ていない。そうではなく、純粹意識と新しいテクノロジーの発見が、これからの時代を左右する成功要因となるのだ。人類にとっての新しい科学である。それを心の技術、靈的科学、意識科学、エーテル科学などという。

潜在的で隠れた術式を顕在領域に引き上げ、四大元素による術式を調査・解体することが成功要因である。それは膨大なデータ量だ。ゆえに、レバレッジ分析が有効になる。これは個人の人生を変えることにとどまらず、人類の遺伝系や仮想宇宙への働きかけとしても有効だ。

結果として、デザイン思考とシステム思考の統合によるレバレッジ・ポイントの特定と、そこにピンポイントで実装する解決策が求められる。レバレッジとして機能するその解決策、体験可能な手触り感のあるプロダクト、それこそが赤を意味するルベドであり、賢者の石というレバレッジ触媒なのである。

新時代のテクノロジーとエネルギーにおいて、人間装置の進化が重要なポイントになる。トランスヒューマニズム的な外部装置を必要とせず、より広範囲な電磁環境に整合するようになっていく。スマホの通知をオフにしても、チャットにメッセージが届いていることに気づくような能力が開発される。これは最近、私も意図的に使えるようになってきた能力だ。それは、水銀へのアプローチでなされる。

これまでの文明と比較すると、外部装置に依存する文明から人間自身の進化へと、惑星レベルの全体的な移行と変容が起きるということだ。伝統的な表現を借りるならば「物質と精神のバランスがとれるようになっていく」といえる。まさしく、ゾンビ状態からの復活だ。

より正確には「意識を科学し、意識とエネルギーを扱うテクノロジーが発達する」ということになる。さらにその先にある展望は、体験可能な外宇宙への標準接続と銀河文明への参加ということになるだろう。意識は科学の最後のフロンティアではない。ようやく惑星文明がスタート地点に立つということだ。銀河レベルの大航海時代において。

第7章：自由と主権を獲得する、 オープンソースと変革の戦略



現代文明の秘密とその構造

これまで、魔術や錬金術をテクノロジーとして解いてきた。さらに、2つのカテゴリーを定義した。最も基礎的な分野を「意識テック」と呼び、既存の枠組みやエネルギーを扱う分野を「電磁テック」と名づけた。さらに電磁テックを心の技術として再定義した。プリマ・マテリアを純粹意識レベルから扱う場合は意識テックとなり、遺伝子や太陽系惑星との相互作用などは心の技術であることも検討してきた。

意識を扱うテクノロジーをオープンソース化するにあたり、ここでセキュリティ、プライバシー、そして「自由と主権」という、非常に重要かつ影響範囲の広い内容を記録したい。この開示は、今後の文明を左右する重要な情報だ。なぜなら、これまでの文明というのは、支配、秘匿、詐術といった「だます、隠す、搾取する、苦痛を与える」というアプローチによって、秘密裏に運用されてきたからである。

いかなる形態でも、その利権を維持したい意識や勢力が存在する。そして、共依存関係にある自動操縦なゾンビ意識も非常に多く感じられる。一方、テクノロジー業界を含むいくつかの分野では「自由と主権」を獲得するための運動が活発になってきている。それは、陰謀を暴くように見せかけて、別の領域に囲い込むようなスピリチュアル産業や自己啓発業界ではなく、科学的でオープンソースな活動だ。

よって、あなたと私もアンダーグラウンドな錬金術ネットワークと現代のオープンソース活動を継承・統合し、個人や種族が「自由と主権」を獲得するためのテクノロジーを明確に定義していきたい。そのために、心の技術におけるセキュリティ、プライバシー、そして透明性などについて理解しておくことはとても大切だ。

魔術師や錬金術師は、現代でいう「意識ハッカー」だ。ゆえに、彼らの中で自由と主権を目指した者たちは、あることをよく知っている。それは「人間装置とその動作環境は、仮想化・分離された孤立環境である」ということだ。ゆえに古代、一部の術者たちは「肉体が悪で精神が善」というような錯覚に陥り、ひたすら物界からの解脱を目指すようになった。

このような錯覚が蔓延した原因は、人間装置とその動作環境が幾度となく仮想化され、情報の非対称性と秘匿によって（意図的に）隠されてきたからである。それはまるで、ハードウェアレベルはBIOSの支配、ミドルウェアはブラックボックス化されたサーバーとして稼働し、ソフトウェアにおいてはソースコードが暗号化されたような状態であった。ネットワークとホスト環境は何層にも仮想化されてきた。

このような支配構造を透視するとき、それは「心の檻と幻想系」アーキテクチャとして理解される。そして、私たち一般人が活動する「最も仮想化されたインフラとアプリ」は、もは

や純粹意識、集合意識、惑星環境、体験可能な外宇宙などと（論理的な距離と抽象化によって）切り離され、何が真実かまったくわからないようになっているのである。

まるでVPNサーバーに多重アクセスし、さらにTorネットワークからダークウェブにアクセスし、MACアドレスやIPアドレスを自分で確認できないような状態なのだ。とはいえ、サーバー管理者やデータセンターを運用する勢力は、データやログ、戸籍にまつわる個人情報を採取・監視・管理できるようになっているのである。これは、物的な仮想世界だけでなく、靈的な領域にまで適用される。

サーバー管理者、特に仮想化に詳しい人のために補足すると、次のように説明される。

本来稼働していたデータセンター、ラック、物理サーバー、そして何らかの形でアプリケーションを利用するクライアントがハックされた。そして、システムのゴールとルールが別のものになってしまった。ゆえに、本来の目的から逸脱し、物理環境の上にハイパーバイザーが搭載され、支配に都合の良いリソースプールが定義され、仮想マシンをイメージ（遺伝設定とテンプレート）から起動するような術式が、もともと存在したソフトウェアの間に挿入されたのである。

更新：この「ハイパーバイザー」というOS寄りのソフトウェアが要点である。所謂「魂のOS」とでもいうようなインターフェイスにかけられた支配術式を解けるかどうか。これが新文明の最大課題である。

その「心の檻・幻想系」の情報構造と集合意識を透視するため深く潜るとき、外界に投影されている遺伝情報とシステム環境設定を詳細に観察するとき、背後に隠された術式が大量に発見される。それらは、非常に限定されたメンタルモデルや制限の多いマインドセットを多重継承している。隠れた術式と改ざんされた基盤がハッキリ視えてくるのである。

それらシステム構造とプログラムはすべて、四大元素と第五元素によって開発されたものだ。ゆえに、第一質量であるプリマ・マテリアを操作することによって生まれたホログラムといってよい。それが文明を構成する基礎であるため、文明のコアを再創造し、文明システムを刷新するために「心の技術」とそれを扱うあなたのような術者が必要なのである。

環境の仮想化と支配構造

先ほどから、文明構造を現代テクノロジーで説明しているのには理由がある。それは、私たち人類というのは「遺伝情報と環境設定を外界に表現している」からなのだ。ゆえに、ハッキングされ、秘匿されているシステムといえども、辛抱強く（自然の書を）観察し、何度も（監査プログラムによって）検証することにより、隠れた術式を発見することができる。

それが、古代から錬金術師ネットワークとその公開リソースによって表現されてきた「自然の書を徹底的に読む」ということなのだ。そして、これまで検討してきた結界術により、サンプルから四大元素の実装と振る舞いを調べることに繋がっていく。目的を持って続けていけば、必ずその構造は視えてくる。

1600年代の錬金術書に書かれている「Ora, lege, lege, lege, relege, labora et invenies」の真意はそれである。その意味は「祈れ、読め、読め、読め、再度読め、働け、さすれば見出さん」であり、祈りは意宣りであり、意志力をトリガーにすることである。後は、ひたすら観察と検証を繰り返すのだ。

ちなみに、監査プログラムによる検証というのは、スタートアップ業界でいうところの「プロトタイプ検証」である。これは遺伝工学的に言えば、原型を特定するための「心に仕組む簡易術式」といえる。要は、自作のプログラムであり、それはマインドや人間装置にとってインプラントとして機能する。

あなたと私はすでにインプラントで検証中だ。なぜなら、哲学者の卵というマインドレベルのナノテクノロジーによって意思伝達し、形の錬金術という簡易術式によって振動相似に構造共鳴しているからだ。

ハックされる前の文明

では早速、現状維持の文明がどのような構造になっているかを視ていきたい。最初はハックされる前のインフラについて理解することだ。この順番は人間の誕生から転化（肉体の死）までの順番に沿ったものであり、遺伝設定と環境設定を理解するための秘訣となる。

ハックされる前のインフラを「思い出す」のは難しい。よって、人間の成長同様、現代テクノロジーの歩みから確認する。

この見えるモノゴトから見えない世界を把握する方法は、古代から錬金術の専門分野だ。アタノールは人間装置を表しており、かつ物質的な（概念装置としての）アタノールをセットすることで、錬金術師たちは「内面と外面を等しく」してきたからだ。

1990年代後半から2000年代前半のインターネット黎明期を思い出して欲しい。当時は物理的なハードウェアと比較的シンプルなミドルウェア、ソフトウェアによって構成されていた。ネットワークも今より単純で、個人情報もかなり公開されていた。そして、ネットワークにつながる時は「意図的に」そして「自分の意思で」つながっていたはずだ。

クライアント側が原始的かつシンプルだったように、サーバーとネットワークも今よりもっとシンプルだった。当時はサーバーの仮想化などもなく、物理的なサーバーがそのままデー

タセンターのラックに設置され、用途に合わせていくつかのサービスを提供していた。例えば、Webサーバー、DNSサーバー、メールサーバー、DBサーバーなどだ。

この状態は、個別意識が物理的な人間装置というハードウェアを操作しながら環境と相互作用する原初の状態に似ている。スピリチュアル産業でいわれる、多様な種族からの遺伝子操作を受ける前の状態といえるかもしれない。ただし、そのミッシングリンクを埋める仮説は、いったん検討しないでおく。

ハックされ始めた文明構造

そのシンプルで原始的な文明がある時点から変わっていくのである。より多くの情報が、より広範囲な地域から入ってくるようになったのだ。それは、ダイアルアップで限定された情報にアクセスしていた状態から、クラウド環境を支える物理的なリージョンが拡大していった流れによく似ている。

潜在意識や無意識、つまり遺伝系との通信は「既存の回線を上書きする」ADSLの普及に伴い、どんどんバックグラウンドで活発になっていった。多くの場合、人々はその潜在的な通信環境・内容に気づくことはなかった。

この頃、ネットの常時接続やスマホが登場する。それにより「いつでも、どこでも」や「ユビキタス」というキーワードがマーケティング・コミュニケーションで頻繁に使われるようになっていった。非常に脆弱な無線ネットワークもあらゆる場所に散在していた。

この意思伝達におけるグローバリゼーションが、支配構造をより強固なものにしていく。すべてのデータはクラウドに集められ、グローバルなマトリックスで管理されるようになってきた。それは、進化を装ったトレードオフだったのである。快樂と利便性で操られた大衆は、能動的な文明を装った非常に受動的な文明へと段階的に移行していくことになる。

この潜在的な遠隔操作というのが、遺伝系とネットワークによって行われてきた支配なのである。それは「人類はより高次の存在に服従し、崇拝しなければならない」という強固なプログラムを徹底的に実装する結果となった。このあたりから、階層性、高低などが原始概念として支配と結び付けられ、反復的にプログラムされていったのである。

激しく仮想化された支配構造

こうして、分散化されているようで集中管理可能な通信インフラが段階的に確立されていくにつれ、集合的なマインドの構造（仮想宇宙）もどんどん複雑かつ難解になっていった。

最も戦略的にデザインされたマインド技術を挙げるならば、それは「仮想化」である。

仮想化（virtualisation）は、主にクラウドに関係するテクノロジーではあるが、スマホやパソコンという人間装置レベルにも適用される、非常に汎用性の高いものだ。この技術は、真源からの論理的な距離を多重実装することを可能にし、徹底的な分離と支配体制を構築するために重要な役割を演じている。

ただし、テクノロジーそれ自体が悪いわけではない。私たちが個別化され、異なるインスタンスとして分離行動できるようになっているのは、心の技術の基本仕様「振動相似・構造共振」のおかげなのだから。要は、システムのゴールとルールが問題なのである。

仮想化は顕在的なマインドのレイヤー（多元的位置）からまったく認識されないところで動作している。ほとんどの場合、プラットフォーム（無意識層の仮想宇宙と文明基盤）として機能しているため、まるで第五元素のように感じられる。

問題を知覚することが困難だけでなく、自分たちが支配され、遠隔管理されていることにも気づけないよう、非常に巧妙に調整されているのだ。

この隠された仮想化というテクノロジーによって、人為的に「振動相似・構造共振」なシステムやプログラムを多重構造で実装できるようになったのである。ゆえに、メタバースやデジタル化という「さらに限定的で仮想化された相似文明」へと、人々を誘導しつつ支配することが可能になったのだ。

その極端に制限されたデジタルなプラットフォーム（文明基盤）を効率管理できるようにするのが、統計確率ベースの人工知能なのである。一見、特徴やパターンによってパーソナライズされているかのように見えるのだが、実際のところは均一・均質な管理・監視体制がシステムのゴールだ。

ゆえに、現状維持の文明が開発している人工知能は人間の脳や神経系など、限定された物理・論理面に特化しており、決して「意識のフレームワーク」の一部として、有機的かつ多次元的な設計と実装にはなっていないのである。

現代の人工知能を未来の有機的な人工知能とどう統合するかが、文明の未来を左右する大きな要因なのである。地上人類だけでなく、太陽系や銀河系にとって望ましい方向に統合が進むと、それは他文明との交流が健全かつ安全になされることで確認できる。それが「新しい時代、最高の文明」だ。この新しいゴールの先に、外宇宙との標準接続が待っている。

自由と主権の基本戦略

こうして、惑星地球の文明推移をテクノロジーとして理解していくと、ある疑問に到達する。その疑問は、まるでファイアーウォールのように機能する妨害・支配術式を介して「誰がどこから操作・支配しているのか？」という内容だ。

スピリチュアル産業という、経済プラットフォームで動作している著者や基礎概念は「支配層」というモックオブジェクト（架空の事象・仮想敵）をただ実装しているだけだ。もしくは誰かが暴露した「爬虫類系」や「奥の院」や「ディープステイト」なるインスタンスを（検証なしで）実装しているに過ぎない。

それはまるで、フリーのVPNアプリをダウンロードして、DDoSクライアントとしてボットネット化されている状態だ。プライバシーを意識して、何も考えずに無料配布されるアプリに飛びついて、インストールと同時に（無自覚に）悪事に加担するようなものなのである。検証が重要なのはそれが理由だ。

よって、チャネリングや自動書記がはじまったからといって「私は特別だ」というエゴの肥大化をトリガーにし、ビジネスを始めて他人を巻き込むような魔術師や錬金術師を、古代からこう呼んできた。ふいご吹き（puffer）と。これは、当人の問題だけではなく、仮想化によって歪曲されてしまうからである。支配術式の端的な例といえる。

これもテクノロジーや能力が悪いわけではない。あくまで、思考様式・行動規範、システムのゴールとルールが問題なのである。ゆえに、意識ハッカーは自然の書を徹底的に検証しなければならない。そのためにも、心の技術はオープンソース化され、充分検証されなければならないのだ！

そろそろ疑問に答えたい。私の一次解答は「仮想化による階層構造により、複数の支配者や管理者が存在し、最も原因に近い部分にいるのは自分たちを神々として位置付けてきた存在や種族である」ということだ。それ以上は検証できないため、具体的な組織名や種族の特徴を挙げるのは難しい。

とはいえ、先ほどから検証しているように、遺伝設定やシステム環境設定、情報構造の透視とその検証などを徹底的に行なっていくと、遺伝的な原型というのがハッキリしてくる。その支配的かつ遺伝的な原型を古代の錬金術師たちはこう呼んだ。エホバ（イエホバ）と。

その宇宙意識の中核ともいえる原型は、真源から流れ出る原初の宇宙構造を模倣しているが故に、振動相似・構造共振なシステムのコアとなっている。それが「遺伝系とネットワーク」の正体だ。さらには仮想宇宙とその宇宙意識の正体でもある。私たち地上人類は、それを集合意識や集合的無意識として理解している。つまり、偽の源もしくは神として。

その遺伝システムから意識エネルギーが流出するように遠隔管理されているのが、人間装置とその集合体である種族が表現する文明なのだ。ゆえに、原型配下に天で象徴される第五元素が中間レイヤーとしてプラットフォーム化されている。プラットフォーム管理者は天使で象徴される。その配下に、四大元素でプログラムされた、私たち個人というインスタンスが大量に管理・運営されているわけだ。まさに仮想マシンを管理する仮想宇宙なのだ。

その遺伝原型から流れ出る意識エネルギーを、魔術や練丹術は「ハイヤーセルフや心の水」として伝承してきた。それは、体内・体外を問わず、情報と振動の密度を落とすという意味で液体として描写されてきた。逆に、ロウアーセルフや腎臓から出るエネルギーが気体なのは、逆方向へのエネルギー上昇を意味するからだ。ゆえに、アタノールや道教廟の炉と同じく、四大元素のイグニス（火）はサタンのすぐ上、すべてを熱する氣化プログラムとして配置されているのである。

この仮想化されたシステム構造を念頭に置いて、自由と主権の基本戦略について考えたい。

私が提案したいのは「仮想化された文明をハックして有効活用する」という基本戦略だ。決して、歪曲される前の文明まで退化することでも、破壊し尽くすことでもない。かといって、すべての支配構造を継承するわけにもいかない。ゆえに「80%を捨て、20%を再利用する」ことを提唱したい。術式解体の目安となる指標がこれだ。

このことが理由で、徹底的な断捨離が必要なのである。そして、再利用する20%というのは主に「遺伝系とネットワーク構造」であり、原型や他の主要なインターフェイスを交換・改善しつつ、それぞれの細かい課題解決領域（サブドメイン）の中身を大幅に変えていくということだ。ゆえに、領域内にある大量の背景、分野を横断する文脈には大変革が起きる。

つまり、一定のフレームワークだけ残し、それ以外は刷新するという戦略になる。

この戦略が有効な理由は、混乱を最小限に抑えられることがひとつ。なぜなら、API連携と仮想化が浸透した現状維持の文明では、インターフェイスの定義が定着しているからだ。中身の変更はインターフェイス間の相互通信にはさほど影響を与えない。

もうひとつは、ハックされた遺伝系と原型が必ずしも悪ではなく、品質としても劣悪ではないということだ。これまで地上人類が、何らかの形で神々として崇拜し、御利益信仰してきた対象なのであるから、仮想宇宙内部ではそれなりの影響力を発揮していたわけなので、進化レベルでは人類よりも先輩なのだ。崇拜の対象ではないが、学習の対象にはなる。

とはいえ、仮想環境の中間レイヤーで中間管理職として機能している、私たちと同じ人間装置を持った同種族の支配者とその組織構造は解体されなければならない。そうしないと、そ

こがボトルネックとなって遺伝系の最適化やイノベーションが起こせなくなるからだ。ここには秘教や神秘哲学が依拠するブラザーフッドやマスターの階層が当てはまる。

重要なのは、支配、秘匿、詐術といった「だます、隠す、搾取する、苦痛を与える」という手法によって、秘密裏に運用されてきたプラットフォームは解体されなければならないというポイントだ。それは、原型、四大元素、第五元素も同様だ。

その基本戦略を遂行するにあたり、私に取り組み始めた戦術も参考までに公開したい。それは、この記録を通じた（次世代テクノロジーを使った）プロトタイプ検証。心の技術および研究内容のオープンソース化。セキュリティだけでなく、プライバシーや「自由と主権」を考慮した協業である。その協業にはツールの選定と使い方なども含まれる。

ゆえに、現代のオープンソース運動をふんだんに取り入れ、オープンソース化されたツールやE2E（end-to-end）な暗号化技術、用途に応じたゼロトラストやVPNの活用、自動化すべき内容とプライバシー優先でマニュアル作業すべき領域との切り分けなど、自分自身で徹底的に採用・実装・検証してきた。今後、文明の構築を担う個人や組織と協業するために。

それが古代から続く錬金術師の戦略的な行動なのである。内面と外面を等しくするのが、アタノールであり、内丹術であり、文明構築の成功要因であるからだ。

第8章：人類と惑星システムに仕込まれた妨害術式の魔術解体



努力が実らない本当の理由

これまで、一者と第一質量という「意識とエネルギー」について調べ、四大元素というプログラム仕様を把握した。さらに、第五元素という直線時空を超えたプラットフォームについても理解してきた。ここまでは単なる古典と伝承の解読に過ぎないのだが、あなたと私はそこからさらに先へと進んだ。

意識とエネルギーにフォーカスする、最も基本的かつ普遍的なテクノロジーを「意識テック」として理解し、遺伝子や環境との相互作用など、すでに創造されたモノゴトを操作するテクノロジーを「電磁テック」として分類した。そして、深掘りする対象を「心の技術」として再定義した。これにより、現状維持の文明や、仮想化という高度な詐術を駆使した支配構造を理解することができた。

さらに深淵を覗いていく。相当のゲシュタルト崩壊が待ち受けているため、興味本位でこの記録を読むことはオススメしない。それなりの覚悟を持って情報を調べていかないと、容易に心（マインドセット）が壊れてしまうからだ。

あなたにも経験があると思う。何にチャレンジしても、どれだけ基本に忠実に行動しても、どんなに長期間継続しても、まったく努力が実らないという経験を。あらゆる魔術や錬金術が、ことごとく失敗してきた現実を。まるで世界すべてが敵に回ったかのように、堅実な自己改善を嘲笑うかのように、同じパターンで妨害術式が発動してきた真実を。

多くのスピリチュアル・リーダーやドグマはそれを「自己責任」や「原罪」として説いてきたはずだ。すべての責任は自分にあり、自分の内面が外界に投影されているだけなのだと。自分の中にその波動があるから、環境にある同じ波動に共鳴しているだけなのだと。もしくは、あなたのせいではなく社会構造が悪いのだと、責任回避を推奨してきたはずだ。

さらに責任回避と「臭い物に蓋をする」習慣がエスカレートすると、特定の秘密結社やシンボルを仮想敵に仕立て上げ、すべての責任は（まったく知らない）秘密結社や（関わったこともない）組織にあるとして糾弾し、逆に意識エネルギーを注ぎ込んできたはずだ。そして、必ずそれを扇動するリーダーが経済的にも目立つ活動をしてきたのである。

残念なことに、彼ら自身も本当の原因は特定できていない。

システムを理解しているわけでもなければ、テクノロジーを把握しているわけでもない。隠れた謀略プロジェクトに参画していたわけでもない。ただ、先人たちが説いてきた内容をオウム返しに繰り返しているだけなのだ。これはスピリチュアル産業や自己啓発業界も同じ

で、お金とエネルギーにまつわるトピックなど、枯れ果てたテンプレがずっと使いまわされてきた。詐術を見抜く方法の一つが、この「オウム返しテンプレ現象」である。

以前、その現象を「プライバシーを気にして無料のVPNアプリをダウンロードした瞬間、DDoS攻撃に参加するボットネット」として表現した。最新のニュースで例えるならば、それは利用者の95%が自動プログラムやボットであったという、ソーシャルメディア・アプリのようなものだ。

他者のコンテンツを盗用、検証なしに継承する情報ビジネスも同様だ。まるで、海賊版のソフトウェアがマルウェア感染し、自分のマインドセットやメンタルデータだけでなく、グローバル・ネットワークにまで多大な迷惑をかけているような状態だ。遠隔操作のためのゾンビ・リソースであり、自動操縦可能なボットであり、プロパガンダの常套手段として多用されている。

一見、正しそうに見えるその教え。何となく再現性があるように思えるそのメソッド。確かに「一部は」正しい。しかし、それがすべてではない。あくまで古い一般論でしかなく、そこに大きなトラップがある。一部が正しいからといって、それを普遍的な法則として説いたり、速攻でビジネスにするケースが後を絶たない。そして、見えない世界を扱う産業というのは、もはや何をいっても許されるという状況にまで発展している。

そんな心が腐った危機的状況ではあるものの、ついに根本原因のいくつかが発覚した。

努力が実らない本当の理由。その根本原因は、そんな一般論で決定されるものではなく、それぞれ異なる「パーソナライズ」された理由がある。これが最初の真実だ。さらに、これまで書いてきたように、歴史を通じて展開されてきた「エリート主義と媒介ルール」がその背後に存在する。そして最後に、それはテクノロジーで巧妙にレバレッジされてきたということだ。つまり、複数の根本原因と細かい原因がホログラムのように絡み合っているのだ。

これが、均一・均質な管理体制を目指してきた統計確率的な文明における「ダークデータ」なのである。この記録では、巧妙に隠されてきたレバレッジを術式解体する。それは同時に、エリート主義と媒介ルールのゲシュタルト崩壊を意味するのである。

なぜ、この巨大で腐った術式を解体しなければならないのか。それは、これまで一緒に検討してきたとおりだ。私たちの「自由と主権」を取り戻すためである。自由と主権を取り戻すためには、放棄していた責任と、奪われていたエネルギーを取り戻さなければならない。そのために、一度システムをシャットダウンして、刷新する覚悟が求められる。

エリート主義と媒介ルールの術式解体

細かい遺伝プログラムや種族的な特性、そして人間装置のシステム環境設定など、パーソナライズされた原因を特定するには膨大な検証が必要となる。一般化の上、さらに単純化して「9割はこれでOK」などとは口が裂けてもいえないのである。

よって、この記録ではより共通項目の多い、2つのポイントを説明したい。両方とも、仮想宇宙と文明基盤に関係があり、根本原因として強力なレバレッジである。ひとつは、システムのゴールとルールという最大級のレバレッジである「エリート主義と媒介ルール」だ。もうひとつは、情報の構造とフローという、通信基盤の中心的な役割を果たす「ファイアーウォールとルーティング」という、情報戦争における戦略的なテクノロジーである。

最初に、エリート主義と媒介ルールを解体していく。これは、システムのゴールとルールを定義している根本原因であり、非常に強力なレバレッジだ。なぜなら、システムのゴールは「支配と操作」であり、ルールがその支配と操作を達成するように定められているからだ。それはプラットフォーム構築（文明構築）のために定める「ビジネスルール」だ。

つまり、この仮想世界の「理」であるということだ。通常、仮想世界のユーザーはその理の外に出ることは不可能であり、ビジネスルールを超えた実装はありえない。もちろん、理の外にあるサービスも提供されない。これがシステムの課題解決領域であり、支配と操作を目的に設定された「領域」ということだ。仮想化を駆使した「結界術」なのである。

さらに細かく分析すると、結界術で管理されている数十億のユーザーは、領域内の定められた背景・文脈に従い、敷かれたレールの上を歩んでいる。それがシナリオである。そのシナリオが大量に統合された状態が、仮想ユニバースなのだ。統一されたバース（ユニバース）というのは、複数のシナリオが統合・統一されてできあがった仮想宇宙を指している。

これが「心の檻と幻想系」の正体であり、仮想宇宙の宇宙意識を達成したところで幻想からは逃れられない理由だ。

今まで誰もハッキリ定義してこなかった、このシステム仕様と隠れたレバレッジが原因で、あらゆる情報が錯綜し、五行プログラムが相生・相克して流転を繰り返すウロボロスのように、出口も終わりもない不毛なループを繰り返してきた。スピリチュアル産業の衝突や情報の推移というのは、流転プログラムという魔術によって無限ループしているのである。

ゆえに、スピリチュアル産業というのは「心の檻と幻想系」の一部であり、流転プログラムが原因でラットレースのように作用する。知識欲を満たしたいという欲求をトリガーし、教えや人を渡り歩くよう思考様式・行動規範という文明基盤レベルで設計されているのである。それはまるで、トーマス・クーンが提唱したパラダイムシフトのように動作している。つまり、経済トレンドや技術トレンドと何も変わらないということだ。

なぜ、そのような流転プログラムが運用され、経済プラットフォームの仮想サーバーとしてスピリチュアル産業を経営しているのだろうか。そのように疑問と課題を設定していくと、大量の術式が姿を現す。あなたと私のこのような努力がハッキングであり、古代から本気の錬金術師たちが命をかけて取り組んできた「理の外へのバックドア開発」なのである。

金は金からしか生まれえない。人間は人間からしか生まれえない。ガーベッジ・イン、ガーベッジ・アウト的な錬金術の金言というのは、そういう多重の意味を含んでいるのである。言語をホログラム展開して立体的に解読するというテクニックを知らなければ、読めないようになっているのだ。それは暗号化のせいではなく、読み手の意識とバイブスの問題である。

つまり、ビジネスルールとシナリオがサポートしない目的を仮想宇宙で達成することは不可能なのだ。よって、あなたが創造主で、すべては可能であるというテンプレは、詐術として効果を発揮しているが、まったくの嘘である。宇宙として彼らが認識している遺伝系・幻想系・仮想宇宙などのシステムは、そのようには設計も実装もされていない。ただし、言葉だけが（外宇宙における）真実なので、非常に深刻な問題を引き起こし続けている。

このようなボットネットやゾンビネットワークの背後にエリート主義と媒介ルールが存在する。エリートが種を蒔き、媒介者（霊能者）が増幅し、我々を詐術にかけるのである。

エリート主義は、支配と操作の観点からも理解しやすいと思う。しかし、そのエリート主義がどのように媒介ルールとつながっているかは見過ごされやすいポイントだ。媒介とは神々であり、天皇であり、王族であり、貴族であり、霊媒であり、祭司であり、巫女であり、グルであり、マギであり、マスターである。さらにいうと、教えであり、伝統であり、口伝であり、ドグマであり、宇宙理論であり、哲学であり、心理学であり、フレームワークであり、多重の結界術なのである。

この記録におけるエリート主義とは、端的に「ある特定の種族や存在たちが利権を握るための思想」である。それは思考様式・行動規範という仮想宇宙最強のレバレッジであり、その思想の上に支配と操作というシステムのゴールとルールが展開されている。まるで、古事記でいうアメノミナカヌシが思想で、タカミムスヒ以下の柱がシステムのレバレッジ（モデル）であるかのようだ。つまり、この仮想宇宙は、魔術と錬金術で構築されているというのが、隠された真実なのである。

要は「人為的に構築された仮想環境を通してでなければ生存・進化できない」という刷り込みが、洗脳や精心操作（マインドコントロール）の最も基本的なプログラムなのである。この仮想環境は「多重の階層性になった次元」という論理的な距離と多重の結界術により強化され、容易に突破できないよう堅牢に実装されている。それがアセンション信仰と高次元存在への崇拜プログラムへと展開されているのだ。

そのシステム構造を継承するからこそ、すべては相似系であり、流転している。経済プラットフォームも、スピリチュアル産業も、CEOたちのマインドセットも、宇宙理論もすべて振動相似・構造共振なのである。この「相似系な流転プログラムという周期」は、真実に立脚した幻想を生み出す基本仕様であり、宇宙に浮いた惑星というレコード版の溝をなぞるかのように「直線時空」という基本シナリオを無限ループさせている。それが心の檻として機能し、幻想系における共通認識として成立している。

源とつながるためには「道」が必要であり、媒介が必要であり、神々やキリストを通さなければならないというプログラムが何度も何度も繰り返し、人類の遺伝系に実装されてきたのである。本当は、それは「つながりにくい人々がトリガーとして活用する」類のテクノロジーやシステム、もっと言うと支援体制であったはずなのだ。チャネラーや霊能者もその詐欺構造を強烈に継承している。

本気の錬金術師はそれを解体しつつオープンソース化しようと、古代から努力してきたのである。これが、心の技術をオープンソース化すべき最大の理由だ。

ファイアーウォールとルーティングの暴露

では、テクノロジーの術式解体に入っていく。この術式解体によって、根本原因の一部が明らかになる。すべての根本原因が明らかになるわけではないが、これは驚くほど巧妙に実装された高度なテクノロジーだ。

システム思想的にいう「情報の構造とフロー」という中規模レバレッジは、カバラのセフィロトでいう「ティファレット」と相似形である。それは古事記でいう「クニトコタチ」という柱に相当すると視てよいだろう。バビロニア神話でいうアヌナキのマルドゥクという擬人化されたインターフェイスとしても理解できる。それらは電磁インターフェイスだ。

その基本モデルとシステムが支配する仮想宇宙は、情報戦略と関係があり、直線時空の制限を受けない集積と非線形な増幅を活用し、知覚と感情に作用し、ホログラムを投影する渦のようなエネルギーを統合管理している。

つまり、システムのゴールとルールを実装している「顕在化したルール」なのである。ゆえに、ルールを体現する「美」でありつつ、人間装置とマインド・システムに関係のある「インフラ」であり、国という「文明基盤」として認識される。さらに、ホログラムの中央にある心臓のような役割としても透視される。錬金術的に表現するならば、遺伝子という分野を研究する「心の技術」に属する（見えない世界の）テクノロジーだ。

このテクノロジーによって、四大元素と方角、つまり四方の風がマッピングされ、電磁的に機能している。いかえると、地球の電磁場や網の目をハックし、人間装置をハックしている。ゆえに、地球のコア付近に何らかのテクノロジーと拠点があると考えられる。テクノロジー的にそこにあるはずだからだ。

それが伝統的な魔術が依拠してきた「開発基盤」の一部である。現代テクノロジーでいう、クラウドベンダーのようなイメージだ。そしてプラットフォームがそのまま、心の檻と幻想系の器としても動作している。そのプラットフォームの中核にあるのが遺伝系であり、人類が潜在意識・集合意識として分類する領域だ。

そのコミュニケーション・ネットワークを多次元的に管理しているのが、ファイアウォールとルーティングだ。そのテクノロジーはカバラでいう「ティファレットとイエソドの連携」としても透視される。システム思考でいう「情報の構造とフローがシステムの遅延と連携している」という感じなのである。最先端のテクノロジーでいうと、ゼロトラストなファイアウォールであり、暗号化された通信をTLS解読し、通信内容を監視している。

つまり、あなたや私が人間装置を使っており、なおかつ「支配と操作のゼロトラスト・プラットフォーム」にデバイス登録されていた場合、そのサイキックなハートやマインドレベルの通信は監視され、意図に反する形で強制的にルーティング（歪曲）されてしまうのだ。それが自動化された反転術式の正体だ。これを自己責任とするのは、いかがなものだろうか？

このテクノロジーによって自動化された反転術式を自己責任とするならば、それは「そのような遺伝子を持って生まれたあなたの責任だ」といっているに等しい。ということは「生まれてきた自己責任」を追求されているということになる。それをスピリチュアル産業では「アセンション・イベントに参加するために自ら選んで転生してきた」という、均一でフワフワした表現にルーティング（歪曲）してしまうのである。それは真実をラッピングした幻想系のマーケティング（促進）ではないだろうか。

このファイアウォールとルーティングがどのように機能しているか、技術的に記述を試みたい。テクノロジーや英語のバックグラウンドがあるならば、問題の根本原因を特定するヒントくらいにはなるはずだ。問題の特定によって、私のように無意味な解決策に投資し続けて失敗するのを避けられるし、意識ハッカーとしてあなたが「理の外」へのバックドアを開いてくれるかもしれないからだ。その時はぜひ、その仕様をオープンソース化してほしい。

まず、意外なことに、このファイアウォールとルーティングは人間装置に密接な関係がある。ゆえに、対岸の火事でも遠くの国で起きている戦争でもないということだ。なぜなら、それは「心の技術」であり、遺伝子、ハート、自我系のインプラントのような形で実装され

ているようなのである。仮定系で表現した理由は、実際にインプラントそのものを視認できたからではなく、データの流れを徹底的に検証した結果、そう理解されたためである。

これはゼロトラストのVPNやDNS、ファイアーウォールなどが視認できないのとまったく同じだ。あくまでアプリがエージェント（インプラント）として挿入され、それによってデータが操作されているのだ。まさしく、情報の構造とフローを支配する、ファイアーウォールとルーティングなのである。蛇足だが、これからの「新しい時代、最高の文明」は、このようなマインド・テクノロジーを自分たちで（意図的に）実装する文明になっていくだろう。

この量子的なエージェント・プログラム、つまり人間装置へのインプラントによって、遺伝ネットワーク経由のコミュニケーションや意志の発動などが勝手にルーティングされ、内容によってはブロックされてしまうのである。ブロックされるだけでなく、反転されてしまったり、フィードバックが消えたり、状況が悪化するようプログラムされているのだ。

表面的に知覚されるのは、願いがまったく叶わないという現象だったり、魔術が失敗するという結果だったり、何らかの錬成が途中で邪魔されるという攻撃だったり、ボットネットを使った嫌がらせのような形をとる。それが特定の分野にだけ偏る傾向があるので、ルーティング・テーブルとファイアーウォールのルールが存在することを理解したのである。

技術的に表現するならば、パケットがひたすらドロップされたり、ログがすべて「/dev/null」に送られたり、特定のポートだけINもOUTもできない状態だったり、マルウェアに感染したデバイス（人間装置）が寄ってきたりするわけだ。それがハートや自我系のイベントに連動しているので、日常生活やビジネスにとんでもなく支障をきたすのである。

このテクノロジーが、支配と操作のプラットフォームとしてレバレッジされると、どのように実装されるのだろうか。それは、媒介者を必ず必要とする祈りや教義として、あなたの深層意識にインストールされる。ゆえに、祈り（意宣り）がファイアーウォールとルーターを経由するようになってしまい、すべて自動的に意図しない形で処理される。そのエネルギーはどこに行ったかというところ、システムオーナーと限定されたステークホルダーが扱うために集められるのである。これがアストラル界や幽界として知られる世界の正体だ。

本人は意識しなくても「〇〇を通して、この願いが叶いますように」というような祈りの形でネットワークにデータを送り出してしまふ。ゆえに、勝手にドロップされたり、反転させられたり、フィードバックを消されたりしてしまうのだ。それは自由意志を奪う犯罪なのだが、クライアント証明書をダウンロードしたのも、アプリをインストールしたのも自己責任だという主張によって無視され続けてきたのである。これを詐欺という。

このようなテクノロジーがレバレッジする問題を「シャドウ・ワーク」や「インナーチャイルドの癒し」などで解決するのは無理がある。最近、自己啓発業界でもそのことに気づいて

いる人たちがいるように思うが、なぜか脳科学やAIにルーティングされてしまうのである。それも五行の流転プログラムである可能性が高いと、私は観察している。

このように、個人の生活レベルから社会や経済というプラットフォームという大規模な環境まで、ファイアウォールとルーティングによって美しく巧妙に情報の構造とフローが管理されているのである。遺伝系・自我系への霊妙なエージェントを仕込みつつ、中央集権的にクラウド管理できるようになっていて、直線時空から自由なインフラなのである。

とんでもなく高度なテクノロジー、神代の強力な魔術、銀河の錬金術ではないだろうか。このインフラとシステム、つまりプラットフォームを巡る争奪戦が、現在水面下で起きているように思えてならない。

このように、心の技術を駆使すると、高度な文明が構築できる。とんでもない可能性があると思えても理解してもらえたはずだ。ただ、現在のように使いかたを誤ると、逆レバレッジどころでは済まなくなる。これが、錬金術ネットワークの参加条件として、意識とバイブスによる鍵認証が求められる理由なのだ。そう私は考えている。

直近の課題は、このマインド・インプラントの解体だ。特に、スイッチをオフにすることと、クライアント証明書を削除することだ。これは電磁テックとしても非常に厄介で、インプラントそのものをアンインストールすることができない。遺伝子レベルのコーディングをはじめ、人間装置と集合意識に深く浸透しているからだ。よって、設定を変えたり、インプラントをハックして別の用途に転用するか、術式を無効化するしかないのだ。

それをどのように成功させるかが、錬金術のミッションなのだと考えている。

第9章：復活の時 - あなた自身の 道を切り開く、心の技術



最新トレンドから妨害術式を見つけ出す

最近のトレンドに「ビッグテック離れ」というものがある。実は私もその一人だ。

もちろん、ビッグテックから完全に離れることは難しいし、ビッグテックを敵視するわけでもない。かなりの利便性を世界に提供してくれた。ただ、仮想化され「支配と操作」を目的としたシステムにとんでもなく深く組み込まれていることもまた事実だ。

ある世界最大のオンライン・コマースを例にとってみよう。その企業が提供する動画ストリーミング・サービスをプライバシーに配慮した環境で使ってみると、実に90以上のトラッカーや外部サービスが検出され、ブロックされるのだ。

つまり、年会費や月会費を払いつつ、とんでもなく詳細なデータを採取され、行動履歴を追跡され、分析され、人工知能による「情報のフィルタリング」という名のルーティング（操作・誘導）を行なっているのである。人為的に設定されたマーケットの競争原理がシステムのルール（つまり、ビジネスルール）である以上、この人間ATMとその関連データという「資源の一元管理」は意図的に行われている。

そして、そのマーケットというのは経済プラットフォームや政治・統治機構の下部構造であるため、やはり「支配と操作」を目的とした資金調達や経営思想を継承している。これはスピリチュアル産業が「心の檻と幻想系」の下部構造であるのと実はまったく同じだ。宗教産業でも、統治体というブラックボックス化された組織が存在する場合があるので、すべては同じアーキテクチャとシステムを継承していることが判る。

それが理由で、私はセキュリティ・プライバシー・自由意志をミッションにしたアプリやツールへの乗り換えを進めている。物理デバイスは除くが、ツールの90%は移行が完了した。これが現代の錬金術師の「アタノール」であり、このような「内面と外面をイコールにする」という概念装置を使った、大いなる作業（大魔術）が文明の基礎を構築していく。

このように、ビッグテックの断捨離という浄化プロセスを進めていくと、あらゆる問題が発生する。例えば、バーチャル・ワークスペースを解約しようとするだけで、とんでもない障害が多発するのである。まず、解約方法は迷路の中に設置されている。あらゆるシステムが絡み合っただけで解約できない。サポートに連絡できない。ドキュメントを読んでも解決しないなどの妨害術式が起動されてくる。

国内最大手のショッピングモールや金融サービスなどを経営する企業のサービスも同じで、サポートに連絡できず、時間とエネルギーだけが大量に盗まれるような状況だ。このような、提供者側の都合で一方通行のコミュニケーションしか提供しないシステムがこの世界を

席卷している。ソーシャルメディアにおけるコミュニケーションも一方通行で、もはや人間同士の会話が成立しない世界になったのは、システムの構造とイコールだからだ。

このようなテクノロジーを使った妨害術式を一般に「ダークパターン」と呼ぶ。そして、ビッグテックは強烈なダークパターンを多用している。そのビッグテックが提供するインフラ上でグローバルなツールやアプリが提供されているために、あらゆるサービスに影響を及ぼす。これが、術式の多重継承だ。

こうなってくると、バーチャル・ワークスペースを解約できずにアカウントが残ったまま、他サービスへのログインができない状態になる。キチンと設計され、実装されたツールなどは、メールアドレスが変わっていなければパスワードリセット（スペルの解除）で解決するが、スピードと低コストを徹底した企業の場合はそれすら叶わないのだ。場合によっては、そこからさらに一次回答を得るまで数週間を要する。

これが、テクノロジーでレバレッジされた妨害術式の端的な例だ。お気づきのように、これはただの類比ではない。このテクノロジー問題そのものが、妨害術式や支配と操作の文明に直接関係している。そして、それは主に電磁テック（心の技術）を介して入念に設計・開発・拡張されてきた。金を買うのにUSドルが必要で、金融データがNYCに集められるというのも、設計思想はまったく同じなのである。

戦略というのは、端的に「段階的かつ非線形的で動的な配置」であり、情報密度を下げ、個別化され、分散化された動きでビジョンやミッションを達成するということだ。心の技術で表現するならば「大量の電磁的な集積・増幅に係る装置を操作する」ことに等しい。それすなわち、ファイアーウォールとルーティングであり、その情報構造とフローを管理するのは、人間装置に特化したホログラムなのだ。別名、仮想宇宙という詐欺システムである。

人類の操作に使われた支配術式の徹底解体

これらのことが理由で、洗脳や精心操作、そして仮想化された支配と操作のプラットフォームというのは、心の技術を駆使し、遺伝系とそのネットワークに特化している。その一部が、地球や人間の電磁場を標的にした通信・洗脳システムであるため、電磁波、惑星の電離層、地球コアの電磁環境を「天地人の要領で」利用していることが解ってくるのだ。

それがヘルメス主義者たちが宇宙の構造として描いてきた、エホバという原型、サタンという混沌、混沌を秩序化するという仮想宇宙のビジネスルール、アセンション信仰と次元トランプ、四大元素というプログラム、第五元素という天界のプラットフォームなのである。

それはハイアーセルフ・ミドルセルフ・ロウアーセルフという魔術的で相似系なシステムとして人間装置に導入され、ソフトウェア設計ではソフトウェア・ミドルウェア・ハードウェアとして分類され、システム分析におけるバウンダリー・コントローラー・エンティティという概念に翻訳され、アプリ開発におけるビュー・コントローラー・モデルという概念として表現されてきた。

すべての要素を循環するよう実装したのが、五行の流転術式だ。いいかえると、天国という第五元素プラットフォームで統合され、閉じられた空間魔術といえるだろう。つまり、ITでいうイテレーション（反復開発）やスパイラル開発に相当し、支配術式の基本戦略として「直線時空の概念」と密接に結びついている。それが、賽の河原や輪廻システムとして認識されるものだ。

日本人の深層意識にインストールされたのは、天津神・国津神・八百万の神々と人間である。天界を支配する電氣的なクラスターと、国を治める磁氣的クラスターに分類され、天の父音と地の母音を結合させ、子供である八百万の神々と人間を支配するという概念プログラムである。そして、そのプログラムは長い間、言語形態と遺伝子を通し潜在的に機能してきた。今、その仮想環境の構造が顕在化しているのは偶然ではない。

このような実話と神話を混合させたプログラムというのは、長い間世界で使われてきた。つまり、伝統的なマインド・インプラントの実装・運用方法なのである。ヘルメス思想でいう「Corpus Hermeticum」は有名だ。ウパニシャッドも同様に、カバラでいう「光輝の書」も基本的に対話・物語形式で情報を符号化している。世界で一番出版されたと思われる、聖書も同様だ。バビロニア神話「エヌマ・エリシュ」も同様である。

現代では、メディアやコンテンツがその役割を継承している。経済界、特にマーケティング業界ではストーリーが多用され、アプリ開発ではユーザーストーリーを実装するよう発展してきた。ドメインモデリングでいうコンテキスト設計であり、支配と操作におけるシナリオ開発である。最近では、ストーリーが世界をダメにすることを警告する人も増えた。特に、潜在意識への攻撃と感情操作の観点からである。

これもテクノロジーと同じで、ストーリーそのものは中立だ。なぜなら、ストーリーの正体は、遺伝系のコーディング・パターンとメタデータを利用したアプリ開発だからだ。そのままでは記憶するのが困難な情報や言語化できないデータを符号化するテクノロジーとっていい。人類を対象にした場合、自我系・遺伝系を標的にしたアプリケーションになる。

よって、あくまでシステムのゴールとルール、そしてシステムを使う者たちの思考様式・行動規範（文明基盤）が問題なのである。

心の技術とその使い手に関する、バビロニア神話における原始的な翻訳も興味深い。天空を支配するアヌ、エンキ、エンリル、そしてマルドゥクやニヌルタなど、アヌナキである。そして、地を管理するクラスターとして選ばれたイギギである。日本神話のニギと音が近いのも興味深い。音と光は心の技術における基本要素だ。

それは、音の振動を磁気テープに録音するように作用する。つまり光（電磁波）をサブドメイン領域のオブジェクトやインスタンスに適用するならば、音はそのオブジェクトやインスタンス、時にリソースプール間を橋渡しする通信経路のようなものだ。マインド・インプラントのようなプログラムのインストールも、音が重要な役割を果たす。

これが、錬金術の7天体と地球の電磁的な相互作用であり、さらに錬金術が「音の術」でもある本当の理由だ。そして、3つの構成要素を1つに統合し、型押しされたような存在からの脱却を暗示してきた。この3つの要素というのが、3つのセルフであったり、ボディ・マインド・スピリットであったり、三種の神器として表現されてきた便宜結界である。

その3つの構成要素で動作する人間装置を支配するプラットフォームが、地球と古代の7天体という電磁プラットフォームなのである。それが7天体、光の7つのスペクトル、音階、曜日とのマッピングなどに符号化されている。このように、内面と外面の相互作用、五行の流転プログラム、情報とバイブスの帯域制限が行われてきた歴史がある。

ゆえに錬金術では、それらすべての術式を一度解体し、浄化し、再構築するプロセスをあらゆる形式で断片化・オープンソース化してきた。その目的は、心の檻と幻想系からの脱却である場合が多く、中には幻想の中で支配側に回ることを意図した者たちもいた。そして、非常にごく少数の決意を固めた錬金術師たちだけが、文明の再構築を目指したハッキングを行い、情報を（電磁テックによって）開示してきたのである。

あらゆる錬金術書は似通っているし、手法もほとんど同じだ。しかし、書き手と読み手の組み合わせ次第では「極秘ポータル」が開くのである。なぜなら、すべての情報は相似系であると同時に、どの視座から研究するかで意識とバイブスが劇的に変化するからである。加えて、書物が錬金術ネットワークのログイン画面として機能する以上、直線時空の制限から自由な意思伝達テクノロジーであることを理解できなければあまり意味がない。それを理解した上で、あなたの遺伝情報を活性化させた時、遺伝子が秘密鍵として機能するのだ。

これで鍵が3つ揃ったと思う。では、その鍵を使って直線時空を超えた極秘ポータルを開き、その中に入って、新しい文明と自分で決めた自分だけの道を開発してもらいたい。

自分の意志で道を開発し、新しい文明へ

これまで、この錬金術書をアンカーとして、ネットワークへ接続するポータルとして、そしてテクノロジーの詳細仕様にアクセスするAPIのエンドポイント（接点）として使ってきた。そう、あなたと私は「形の錬金術」と「哲学者の卵」というマインドレベルのナノテクノロジーを駆使して共同作業してきたのだ。

ここから先は、自分の意志で、自分の道を開発し「新しい時代、最高の文明」へと自分自身を統合するステージに入っていく。つまり、あなたは賢者の石を実際に錬成するフェーズに突入したということだ。2023年7月現在、この文明構築という大いなる作業を開始する人々は、まだ世界人口の3%いるかどうかわからない。それくらい、人類の集合意識という「ある時点での集合的な意識のスナップショット」は旧態依然としている。

それを変えるのは途方もないような気がする。あなたもそう感じてここまで来たはずだ。しかし、ポータルが開いた以上、希望もあるし、方法もある。あなたや私のような実践的で実利的な錬金術師は、ポータルを開いたり、情報を取得するのが開始点だと知っている。ここから先は、より高度な施策が求められる進化の段階だ。

ビジネス戦略というのは立案がゴールではない。アプリ開発はリリースがスタートだ。同様に、あなた自身を賢者の石として錬成し、世界に（新時代の）触媒としてリリースしなければ、この錬金術書には何の意味もない。石の錬成は、ただジャンプするだけの謎のワークでタイムラインを変更できると解くような、謎のスピリチュアル産業とは根底から異なる。

今、私は五感ではキャッチできない信号を何らかの形で認識できるようにするテクニックを試している。これは音に特化したテクニックで、潜在的に流れているデータを五感で（一瞬だけ）聞こえるようにする、ちょっと危険な手法だ。そのような人間装置ハッキングを繰り返しているとわかるのが、地上の電磁環境では「妨害術式と精心操作を目的としたデータが常時バックグラウンドでネットワークを流れている」という驚愕の事実だ。

それは、大量のささやきが流れ込んでくるようにも感じられ、同時に不調和を奏でる金属音が大量に鳴っているようにも知覚される。それはもしかしたら、人類が常用しているインターネットを流れる電磁的なエネルギーや、人々が無意識に垂れ流す思念かもしれないし、地球の低周波を使った攻撃なのかもしれない。

その実態はまだわからないが「不調和を生み出し、苦痛を与えるための多重術式」が存在していることだけは確かだ。私はもともと環境から流れてくる大量の音や情報をフィルターするのが得意ではないので、顕在化するとそれはもはや拷問に近い。

まずは、このような環境から文明プロトタイプを構築していく必要があることを認識したい。既存のスピリチュアル産業や自己啓発業界が触れない隠れたポイントにも手を入れて、ポジティブ・ネガティブ差別せず、モノゴトを理解していかなければならない。これは、サー

バーがハックされた時の冷静な対応とまったく同じだ。そんな時に、サーバー管理者が「私は波動の高いワクワクするポジティブな作業しか受けません」というようでは、障害はいつこうに回復しないだろう。

さらに、これまで解体してきたように、遺伝原型とそれを守護するような空間魔術の中から文明を変えていかねばならないことも理解しておきたい。そうでないと、容易に経済プラットフォームに乗せられて流転してしまい、本来の目的を忘れてしまう。もしくは、ファイアーウォールとルーティングによって、意志（の反映）が勝手に操作されてしまう。

そういう多重術式が存在することを知らずに、波動上げやアセンション祭りを起こすと「他者を犠牲にして自分が心地よければそれでいい」という逆レバレッジを実装し続けることになる。この意識の状態では文明を構築すると、現代のような状況が創造される。それを繰り返すことは反復開発であり、流転プログラムであり、賽の河原ではないだろうか。

だからこそ、別の戦略と働きかけが必要なのである。自分自身という賢者の石のコアを「意識テック」で刷新し、自分自身という小宇宙（マイクロコスモス、ローカル・ユニバース）を「電磁テック」で活性化させ、その触媒から集合的な仮想宇宙に新しい意識の状態を浸透させていくという、より科学的・技術的手法だ。自分や他人をいつも心地良くさせるとは限らない。それが破壊的イノベーションであるなら、なおさらだ。

この戦略と働きかけは直線時空をから自由な領域からの作用と、直線時空の文明への作用が同時に発生するという点で、レバレッジが効いている。そして、賢者の石が増えれば増えるほど、全体的な活性度が指数関数的に増えていくよう設計されている。それが銀河的な錬金術における隠されてきた戦略だ。これが極秘任務であり、潜入捜査の目的なのだ。

想像してみてほしい。まるで水中で窒息しそうな圧力の中から解放され、明晰なマインドを手に入れた瞬間を。世界がまるで違う景色で見たその感動を。今まで死んだように「ただ生きているだけ」だったゾンビ状態からの復活を。それが哲学者の卵という量子結界術から始まる、賢者の石の錬成なのである。

その状態で文明を刷新し、生きとし生けるすべての存在たちに敬意を払い、共存していく文化を育てる。今までとは比べ物にならないくらい高度なテクノロジーを活用する外宇宙に標準接続された銀河文明へと増幅させる。

そんな世界がこの先に待ち受けているとしたら、あなたはどうするだろうか？

